

昭和四十六年八月招集

昭和四十六年九月招集

千葉県館山市議会議録

館山市議会

第四回 館山市議會臨時會會議錄

第四回館山市議会臨時会会議録目次

日	時	三
場	所	三
出席議員		三
欠席議員		四
出席説明員		四
出席事務局職員		四
議事日程		四
開	会	五
議長の報告		五
議案の配付		五
会議録署名議員の指名		五
会期の決定		五
提案理由の説明		六
議案の上程（諮問第一号、発議第三号）		八
議案の内容説明		八
質疑応答		九
委員会付託の省略		一二

採決	一二
議案の上程（議案第六十五号）	一三
議案の内容説明	一三
質疑応答	一四
委員会付託の省略	二八
討論	二九
採決	二九
議案の上程（議案第六十六号）	三〇
議案の内容説明	三〇
質疑応答	三一
委員会付託の省略	六六
討論	六七
採決	六九
会議時間の延長	七〇
議案の上程（議案第六十七号）	七〇
議案の内容説明	七〇
委員会付託の省略	七三
採決	七三
閉会	七三
本日の会議に付した事件	七三

第四回館山市議會臨時會會議錄

昭和四十六年八月招集

一、昭和四十六年八月二日（月曜日）午前十時

一、館山市議會本會議場

一、出席議員 二十九名

二	二	一	一	一	一	一	九	七	五	三	一
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
菊	鈴	島	宮	和	五	山	辻	渡	近	流	吉
井	木	野	野	田	十	本	田	辺	藤	山	田
敏	市	茂	敏	一	嵐			昭	好	源	勇
博	蔵	樹	朗	郎	昇	昇	実	夫	雄	次	治

二	二	二	一	一	一	一	一	〇	八	六	四	二
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
西	田	君	安	辻	伊	藤	渡	石	栗	鈴	林	
村	村	塚	西	井	賀	田	辺	井	原	木		
源							軍	武	一			
真	治	喜	益	謹	多	益	治	敏	雄	稔	豐	
次	郎	三	男	爾	朗	治	郎					

二五番 安沢徳順
二八番 田中禄郎
三〇番 遠山ヨネ子

一、欠席議員 一名

二七番 望月照正

一、出席説明員

市長 本間譲

収入役 高木哲三

庶務課長 小倉澄男

教育委員 高木正夫

学校教育課長 吉田隆夫

一、出席事務局職員

事務局長 高梨清一

書記 兵藤恭一

書記 渡辺英弘

一、議事日程

昭和四十六年八月二日午前十時開議

日程第一 會議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

二六番 飯田義男 (四)
二九番 秋山六三郎

助役 畠山伝

秘書課長 太田博雄

財政課長 長谷川弘治

教育委員 長 汐崎政光

庶務課長 長 會 長

事務局長補佐 高尾豊

書記 錦織睦子

書記 川上義雄

日程第三 諮問第一号 公有水面埋立追認について

日程第四 発議第三号 公有水面埋立追認についての答申案

日程第五 議案第六十五号 館山市立館山小学校防音改築第一期工事請負契約の締結について

日程第六 議案第六十六号 館山市教育放送センター条例の制定について

日程第七 議案第六十七号 館山市教育有線テレビ放送装置購入契約の締結について

開 会 午前十時十五分 開 議

○議長 (吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十七名、これより第四回市議会臨時会を開催いたします。

議長 の 報 告

○議長 (吉田勇治郎君) 本臨時会の議案審議のため、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり報告がありましたので、御了承願います。

議 案 の 配 付

○議長 (吉田勇治郎君) 議案を配付いたします。議案の配付漏れはございませんか。― なしと認めます。

会議録署名議員の指名

○議長 (吉田勇治郎君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

本臨時会の会議録署名議員に四番議員鈴木 稔君、二八番議員田中祿郎君以上両君を指名いたします。

会 期 の 決 定

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第二、今期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日一日ということであります。おはかりいたします。会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。
本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

議案理由の説明

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより本臨時会の案件につき市長の説明を求めます。

(市長本間 譲君登壇)

○ 市長 (本間 譲君) 提案理由並びにごあいさつを申し上げたいと存じます。

本日は、暑さ厳しい中を急拠第四回臨時市議会を招集し恐縮に存する次第であります。本日は、急施を要します案件三件につきまして御審議をお願いすることといたしました。その前に一言お祝いのことを申し上げます。三件につきまして、
でございます。

ただいま、全国市議会議長会から鈴木市蔵議員さん、田村議員さん、西村議員さん、元議員の山口 康さんがそれぞれ栄ある永年勤続表彰の光栄に浴され、さらに西村議員さんには国会対策委員及び評議員としての御功績に対して感謝状がそれぞれ伝達され、また新たに国会対策委員に吉田議長さんが就任されましたことはまことに御同慶にたえません。今回表彰されました方々は、地方自治伸展のため大きな貢献をされた方々であります。私は、その日頃の御労苦に対し深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げ、今後とも市勢伸展のために御支援と御協力をたまわりますようお願い申し上げます。

さて、本日提案いたしました案件は条例関係一件、契約の締結が二件のほか、千葉県知事から市議会に対して富崎漁港にかかわる公有水面埋立追認についての諮問があります。

まず、館山市教育放送センター条例の制定であります。わが国は科学技術の進歩と産業経済の発展に伴い、高等教育人口は急速に拡大すると同時に、社会人の教育に対する要求も著しく高まっており、また教育内容は量質ともに急速に拡大、高度化される傾向にあり、これらの社会に生きるためには高度の創造性、情報受容能力及び変化の適応性を要求され、すべての人々にとって生涯を通じてたゆまない教育が必要となつてきております。

このような動向に対処するためには、新しい角度から教育の媒体に工夫をこらし、教育の方法を改善することがきわめて重要であり、そのための方策の一環として知識、情報の伝達にすぐれた、すなわち第一に教育活動の拡大、第二に放送の特殊性を生かした教育効果の大きい教材の提供、第三に教育の機会均等、第四に教師の現職教育の充実をはかることのできる機能を持つ放送を有効に活用しようとするものであります。

本市においては、これが放送の持つ教育的機能を最大限に活用するため、この条例を制定して放送センターを設置しこれと小、中学校、幼稚園、公民館を結び、教育活動に資する番組を教師の参加によって企画、制作し、提供することにより、学校教育及び社会教育の両面にわたって高度で専門的な教育を実現することができるとあります。

次に、教育有線テレビ放送装置購入契約の締結であります。教育機器の三大メーカーである日立、東芝及び松下から仕様書を徴して検討した結果、それぞれの特性を生かして三社と総額六千八百八十三万円で契約を締結したく、条例の規定により議会の議決をお願いしようとするものであります。

次に、館山市立館山小学校防音改築第一期工事請負契約の締結であります。去る七月二十九日指名競争の方法により入札を実施しましたところ、落札者がなかったため、最低の価格をもって入札した有限会社計工務店と五千二百九十五万円で随意契約をいたしたく、条例の規定により議会の議決をお願いしようとするものであります。以上、簡略な説明に終わりますが、詳細につきましては関係課長等をして説明申し上げますので、慎重な御審議をたまわりますようお願い

いしまして私の提案理由並びにごあいさつにかえる次第でございます。どうもありがとうございます。(拍手)

○議長 (吉田勇治郎君) 市長の提案理由が終了しましたので、直ちに議事に入りたいと思います。

この際、議事についておはかりいたします。日程第三、日程第四はいずれも関連した案件であります。よって両案件を一括して審議いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。―御異議なしと認めます。よって決しました。

議案の上程

○議長 (吉田勇治郎君) 諮問第一号公有水面埋立追認について、及び発議第三号公有水面埋立追認についての答申案を一括して議題といたします。

諮問第一号 公有水面埋立追認について

発議第三号 公有水面埋立追認についての答申案

議案の内容説明

○庶務課長 (小倉澄男君) 諮問第一号について御説明申し上げます。

この件はただいま議案の中にお示しいたしましたとおり、漁港内の土地小知谷の下千二百八十七番地の二地先から千二百九十六番地の二地先に約二、三〇三・三ヘーベの土地ができたわけでございますが、この土地は大正十二年の大震災で土地が隆起いたしました。それに関連いたしましたので、県がそこに埋め立てをいたしましたできた土地でございますが、正規の所定の手続が取ってございませんでしたので、このたび富崎漁港の管理者であります県が県知事に対して、公有水面埋立法という法律がございしますが、それに地元市町村議会の意見を徴して、意見がよいという答申がなされたならば、それをもとにしまして県知事に申請して土地を埋め立てをするわけでございますが、これが順序が大昔のことでありましたためにすこし狂いましたんですが、これを追認という形において申請があった次第でございます。

それによりまして、手続といたしましては、市議会がこれに答申が出ましたならば、これを県知事が受け取りまして県が告示することによりまして、この土地が新たに確定するわけでございますが、この確定した場合に、埋め立てができた場合にさらにもう一度市の議会にかえて参りまして、市長はこれにつきまして地方自治法の第九条の五によりまして確認の申請手続をします。それによりまして大字、小字を設定する。それによりまして正式な土地としての認定がなされるわけでございます。そういうようなことが非常に大昔のことでありましたために、当時は国が漁港の管理者でありました。それで、いろいろの事務の取り扱い上非常な不便をもたらしたために追認という形で館山市議会に承認を求めてきたということでございます。よろしくお願いいたします。

○ 二四番 (西村真次君) ただいま説明のありました諮問第一号につきまして、七名の賛成者を得まして発議者として答申案を提出してありますので、よろしく御審議の上、御賛成たまわりますようお願いいたします。

質 疑 応 答

○ 議長 (吉田勇治郎君) 質疑を行ないます。

○ 九番 (辻田 実君) 説明が十分聞き取れなかったというわけか、不足しておったようでございますが、一応この土地は国有地になるのではないかというように思いますが、新しくできた土地の所在は国有地か、県有地か。その所在の説明がなかったのでその点について明らかにしてもらいたい。

これはもう大正十五年にすでに竣工しているわけでございますから、現在使用されている土地ということばかりでした。国有地であるかどうかわかりませんが、新しく土地が造成されてそれに伴うところの現在使用されておるこの富崎漁協ですか、等の貸借関係、それらの問題についての影響乃至そういうものはあるのか、ないのか。そうした面について関係するような要素、そういうものがあつたらこの際教えていただきたいと思ひます。以上。

○ 庶務課長 (小倉澄男君) お答えいたします。この点に關しましては、ただいま辻田議員さんのおっしゃる通りに

国有地として新しく土地ができるわけでございます。その後の問題でございしますが、おそらく県といまして漁港管理者として新しくこの漁港に正式にこの土地が確認されたところでもって、いわゆる相互の関係、賃貸関係とか、そういう関係を締結するという形になると思います。今までは全然土地として認められていなかった土地でございしますので、そういう心配はないと思います。

○ 九番 (辻田 実君) 水産課長いないのであれですが、埋め立てこのものの承認については異議はないと思います。これによって賃借料そういうものが払われておるのかどうか。無料かどうか。この土地が新しくできたとなると、今まで土地になってないわけなんですから、ただであつたわけなんですけれども、それがはっきりしてくるとそういうことについて漁業会等について話し合いがないようにうかがわれますが、なかったならばここで追求してもしようがありませんから承認しなくても、それらの点について新しく土地の確定によって賃貸借関係こういうものが今後出てくるということと言われておりますが、それらの問題については本来こういう大きい土地でございしますし、十分調査されて発案されるのが至当ではないか。この時点で再調査云々ということは非常に支障をきたすわけでございしますので、現時点では賛成いたしますけれども、そういう面について考慮されなかつたのか。されないといすれば、今後そういう面には十分していかないとあつてもって小さな問題ですけれども、大きな問題に発展しかねないと思います。

特に、漁民の問題は東京湾の漁業は衰微しておる中でデリケートであるわけでございしますので、今後注意してやっていたきたいというふうに思いますけれども、その点はどうだったんでしょうか。

○ 庶務課長 (小倉澄男君) ただいまの点につきまして、申しわけないんですが、私、失念いたしましたして確認はいたしておりますので、のちほどまた。

○ 二二番 (田村源治郎君) ちょっとお聞きしますが、この埋立地は大正十四年九月三十日に竣工している。これは不在地主であつたというけれど、地元の要望で国有地として地元との話し合いが各組合はいつているか。これ以上に富崎港における埋立地はまだまだあるはずだ。一部漁港管理として布良漁港、富崎漁港建物をどんどん建ててある。両組

合の話し合いで承諾を得て追認のことをするか。その点を一つお聞きしたいと思います。

○ 庶務課長（小倉澄男君） 田村議員さんの御質問につきまして、私、まことに申しわけございませんで、十分なる地元の話し合いがいつているかということについては調べてございませんので、早速調べましてお答え申し上げます。なお、そのほかにこういう土地があるけれども、まだこういう例があるのかどうかという御質問だと思いますが、この点につきましてはあくまでも市がこれを提案するわけでありませんので、この埋め立てした方、いわゆる県が館山市にこういう諮問をしてきませんという、館山市としてはどうにもならない問題でございます。

しかしながら、その前の段階といたしましては、やはり地元の実際にお使いになつておる漁業協同組合とか、地元の人たちが何の名もついていないような土地があるけれども、これは正規の法的措置を取つてもらいたいというような陳情とか、そういうものが県にいつて県が正式に動いてくれるという形になるのではないかと思います。

第二点の地元としては市も関連がございますので、できるならば県にお願いをいたしまして追認という形をなるべく早く取つてもらいたいというような形で進めていきたいという考え方でございます。

○ 二二番（田村源治郎君） 今、聞きますと、国、県が管理者として埋め立ての申請してあるという土地、地元は全然話がついてない。いわゆる漁港における管理は国、県が管理してあるというけれど、そこを使うのはやはり住民が使うのであつて住民の納得いつた追認をすべきである。地元の漁業会あたり埋立地として負担金も取られておる。そうして埋め立てを行なつた。地元が納得して漁港管理者と話すべきだ。国、県なりでやつたら漁業者としては何も仕事はできない。

例をいうならば、相浜の漁業会の回りの埋立地は布良、富崎という漁業会が管理者として土地を納得してそのものを払い下げるような方法を取つてもらえばいい。今まで不在である。追認だといわれて地元も納得していない。だれも知らないということは地元民を無視しておることになります。聞くところによれば、構造改善なりで富崎の組合は六百万の金を投じて近代的の事務所をこしらえよう。この用地にいろいろの計画を立てているものに対して地元の全然話し

合いが無いのだ。地元が今までこの港に対して負担金を出して骨折ってきた。どこにいても国有地として取り上げてしまふならば地元民は今後何もできない。地元の承諾を得ない。いけなければ不在のほろがかえっている。何が何でも地元から追認しなくてもいい。地元との話し合いの上で追認すべきだと思う。

○議長 (吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午前十時四十三分 休憩

午前十一時七分 再開

○議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長 (本間 讓君) ただいま田村議員さんから地元の關係を御心配になられまして御意見が出ましたが、今、調べたところによりますと、地元では話し合いが大体ついておるといふようなことのようにございますが、これを御決定をいただければ市としても円満に利用方法の中に入って指導して参りたいと思えますから、よろしく。

○議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略したいと思えます。これに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略することに決定いたしました。これより討論を行ないます。本案に対する討論はございませんか。――討論なしと認めます。

採決

○議長 (吉田勇治郎君) これより採決いたします。本案を原案通り可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長 （吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

この際、暫時休憩いたします。

午前十一時 九分 休 憩

午後 一時二十五分 再 開

○議長 （吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長 （吉田勇治郎君） 日程第五、議案第六十五号館山市立館山小学校防音改築第一期工事請負契約の締結につ

てを議題いたします。

（書記朗読）

議案第六十五号 館山市立館山小学校防音改築第一期工事請負契約の締結について

議案の内容説明

○庶務課長 （小倉澄男君） 議案第六十五号につきまして御説明申し上げます。

本件は館山市立館山小学校の防音改築第一期工事でございますが、この改築工事にあたりまして指名業名としまして十三社を選定いたしました。まず、その基準といたしまして、一応資本金を約工事額の十倍相当以上というようなことで七億円以上。二番目は、真に市内に実績を持っているものを含むということ。さらに三番目に県下の防音校舎の指名に実績のあるようなものというようなものを基準といたしまして、さらにそれに地元業者をひとつ優先的にこれに育成のために工事に指名していこうという大体の基準を四つ設けまして選定いたしました結果、清水建設、大成建設、大林

組、熊谷組、東急建設、戸田組、東海工業、安藤建設、鴻之池組、不動建設、朝日建設、それに地元といたしまして計工務店、石井工務店の十三社を選びまして競争入札に付しましたところが、再度並びに再度入札をいたしました、結局落札に至りませんでした。そこで、地方自治法施行令第六十七条の二第一項第五号の規定によりまして最低の札を出した計工務店に見積書を徴しましたところ、この議案に計上されていきますとおり、五千二百九十五万円をもちまして見積書が出て参りましたので、ここに計工務店代表取締役計岩尾さんと随意契約によりまして決定いたしましたということでございます。

なお、簡単に館山小学校の内容につきまして申し上げますと、総延べ坪でございしますが、一、二二二・二八ヘーベすなわち三百四十九・七三坪でございます。三階建てでございまして普通教室十教室、特殊学級二教室、廊下、便所、機械室等で電気設備を含む工事でございます。一応工期を四十七年二月末日といたしまして、御承認願いましたならば本契約を結びたい。そういうよりなことでございます。よろしくお願いいたします。以上でございます。

質 疑 応 答

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本案についての質疑を行ないます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) この議案は校舎の建築のことでありますけれども、問題は、航空機による騒音公害の防止についてということについて二つばかり質問したいと思ひます。

小学校の校舎が防音校舎として建設される。この点では騒音の防止ができると思ひますが、一般市民特に笠名、宮城等の被害の大きいところに対する対策はどういうふうになっておるか、これが一つであります。

二点は、防音校舎建設について第四回の定例議会で中村議員が質問しております。その質問の内容では、冷暖房装置の必要性について質問しておりますが、その回答では冷暖房装置を認めないような回答が出ております。しかし、夏の暑いのに窓を締め切つて勉強するというような、そういう生徒の立場、生徒の健康そういうことから考えますと、冷

房装置が必要ではないか。さらにこれから建てる鉄筋コンクリートの校舎は、冬の寒いさなかに木造建築と違って相当寒さがきびしく感じられます。こういう冬の場合も考えて暖房装置要するに冷暖房装置が必要であると考えますが、この点について御回答願いたいと思います。

○市長（本間 譲君） 渡辺議員さんの笠名、大賀ですか、地区の住民に対してどう対処するか。こういうことよりでございますが、そのことにつきましては、今は大して考える点もないわけでございますが、また住民の意向があれば、それに基づきましてこれに対処をして参りたいというふうに考えておりますが、なにかNHKのほうではテレビの聴視料を割引きしているとか、免除しているという話を前に聞きましたが、その後聞いておりませんが、この点についてもよく調査して参りたいと考えております。

それから、学校の冷暖房装置については、この前に中村議員さんの質問があったと思いますが、まあ私は、房州においては暖房ですかの必要は考えなくてもいいんじゃないかと思えます。あまり過保護にしてほら暖房などといったのはからだがじょうぶになるかどうか。私としてはまあ暖房なんかはやらないほうがいいと考えておりますが、冷房については昔から私も、渡辺さんもそうでしょうが、暑くてもがまんしてきましたわけですが、多少そういうことに耐えられるという問題がある意味においては必要ではないかと思えます。病人の人はしょうがないんですが、あまり過保護にして温室育ちにしてしまっただろうかと思えますし、冷暖房については私としては考えておらない。こういうわけでございます。

○一番（渡辺軍治郎君） 市長さんの御回答ですと、航空機による騒音公害というのは児童だけではないわけですね。そういうことに対する市の基本的な立場といますか、そういうものがないから、住宅の上を飛ばないようにといったようなそういう、たとえば、航空自衛隊に対する申し入れとか、そういうことが常時やられてきて、そういう系統の上に立って生徒が勉強する上でこの騒音公害から教育を守るといふ、そういう立場が取られていればですけれども基本的なそういうことがないように考えられるわけです。

私たちは、住みよい館山市の環境づくりという点から見れば、騒音公害から地域住民の生命と暮らしを守るといふ、そういう立場に立ってこの航空自衛隊の問題を考えなければならぬと思うんです。だから私たちは、ただ単に住みよい環境づくりということではなしに、館山市の漁業や観光、産業の発展にとって航空自衛隊が六十五万坪もの土地をそこに独占している今の現状を見ますと、ヘリコプターに使うだけならばあれだけ膨大な地域は必要としないわけですから、そういうものが将来館山市が観光レクリエーションとして発展する西岬方面の入口に大きな妨げになっているという点について、騒音公害と合わせて館山市の将来の発展のことから考えて、館空基地の移転とかこういうことはこの前の定例議会においても問題として提起しているわけでありました。したがって、市の小学校の校舎を建設するということはけっこうであります。これは館山市の将来の問題として航空機の騒音公害から、どう住みよい館山市をつくっていくかという立場に立ってその上でこういう問題を考えていたいただきたいということが私の意見であります。

さらに、冷暖房装置の問題については、市長さんは過保護というようなことも言っておりますが、生徒が、私たちがここに居るこういう状態を見てもわかるように、頭ががんがんするような締め切った中で暑いさなかでもな勉強ができるかどうか、子供の立場に立って考えなければならぬ問題だと思えます。

また、暖房装置については北条小学校が鉄筋コンクリートで建てて、あの寒いさなかに子供が寒さの中で、しかも湿度の多い中で教師ともども悩まされていた。そのときに、おかあさん方が市長さんに対して暖房を入れてくれという陳情があったはずであります。ところが、市長さんは予算がないといって断っております。この冬は北条小学校にも暖房装置が必要になっております。そういうものを早くやってくれというのがおかあさん方や保護者の願いになっております。したがって、今、館山小学校の防音校舎をつくるというこのときにおいて、北条小学校から出たそういう父兄の要望にこたえる。また子供が寒さの中でふるえて勉強しなければならないというような、そういう環境づくりは過保護とはいえないと思うんです。過保護というのは別の意味でいろいろないき過ぎが出たときに、そういうことが言われるのであって、私たちがこういう校舎を建設する場合には当然子供が快適な条件の中で勉強ができるような、そういう立

場に立って建設するのが妥当だと思ひます。そういう点について市長さんもう一回御説明願ひたいと思ひます。

○ 市長 (本間 譲君) まあ、渡辺さんにはわるいけど、私どもの時代というところと語弊がありますけれども、たびもはずにそうして学校に行つて、えらいじょうぶで成功もしているし、元気でやっていますよ。今、暖房房州で暖房なんちゅうのは、私は子供のために本当に思うならば私は賛成できません。少し暑いというても夏は暑いのがあたりまえでしょう。われわれもそれをやつて教育を受けてきたんです。それぐらいのことに耐えられる子供を育成することがいろいろの意味でしんぼう強くなることでいろいろの面でいいと思います。暑いときは暑いでいいわけですよ。ですから、それでやつてきておるわけですから、急にどうなつたわけでもない。私は冷暖房についてはそういう考えを持っておるわけでございます。

それから、航空隊の騒音についてはおっしゃるやうにこういう騒音がないほうがいいわけですが、また付近のテレビがガーガーする面があつてお困りだと思ひますが、住宅地の上でなるべく練習をしないようにということの要望は隊にわたつてやりたいと思ひております。以上です。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 今、市長さんの言つたやうに、住宅の上で飛行、飛ばないやうにということは今考えられたことです。それとも、今までも航空自衛隊に対して要請されておりますかどうか。

それから、体位の問題と勉強しやすい問題とを混同して考へていふと思ひます。教育を本当にその実績をあげようとするれば教育しやすいやうな環境づくりということが優先するのではないかと。体力をつくるという問題は別の問題であつて、現実には私たちがこういうやうな中で今、討議をしておりますけれども、学校で勉強する上でおそらく能率は上らないのではないかと。また、冬寒いさなかでふるえながら勉強するということでは、やはり教育の実績が上らないのではないかと。市長さんは何かそういう場所では子供をきたえるやうなことも言つておりますが、これは別の問題だと思ひます。北条小学校の場合でも、先生方は靴下を三足はいた。父兄は子供たちに毛布をひさぎに持たしてやつたということが伝えられております。だから、子供の体力をきたえる問題と勉強しやすい環境をつくつてやるということと

は別の問題であります。市長さんはそれを混同して考えられているようですが、こういう考え方で教育全体をやっているということはまずいんではないか。先ほど協議会の中でも那須高原の虚弱児の健康管理という面で話がありましたけれども、何かそういう点で子供の体力をつくる問題と教育一般の問題を混同しているように考えられますが、そういう点で考え方を改めてもらえないかどうか。

○ 市長（本間 譲君） 自衛隊のほうには騒音をどうしてということで申し込んだことはございません。

それから、今の冷暖房装置については、昔からわれわれはそうしてやってきてじょうぶであるし、そういうことでさしつかえないわけです。新しくここで冷暖房なんかを設けたりする必要はないと思うんです。以上です。

○ 一〇番（渡辺軍事郎君） 市長さんは昔からやってきたという自分の体験とか、そういうことをもとにして考えられておられますが、今の教育を受ける子供の立場に立ってどう考えているかということなんです。

○ 市長（本間 譲君） それは別にどうこう考えていませんけれども、そのままでやるのが私は最もいい。こういうふうに考えています。

○ 九番（辻田 実君） 指名の経過という点と教育環境の確保の観点から二点について御質問をいたしたいと思います。

指名業者十三社ということをごいまして、そして四項の項目をあげたわけでございますけれども、この前に新聞報道等されてわかっておったのでございますけれども、百六十七条の規定に基づくところの指名競争入札にする必要があったのかどうなのかということ。必要性があったと思いますが、それにしても十三社を指名するということは、量的に多かったのではないかというふうに思われますけれども、この点について一、二、三、四、資本金の問題、市内の工事の実績、県下の防音校舎の実績これらに適合したものであるということですが、十一社すべてこれに適合しておったのかどうか。先ほどの説明では適合しておったというふうに聞こえたわけでございますが、市内の有力業者二社を入れたというところでございますから、四点の中の三点で十一社は全部適合していたものか。適合してないような気もいたします。

で、これがまず第一点。

それから、この種のものについては指名の必要性があったと思うんですけども、その指名の必要性についてはいろいろと法に書いてありますけれども、これの一、二、三とありますけれども、どれに該当したのか、性質的なものか、それとも一般競争入札が不利であったのか。こちらの点について簡単に話していただきたいと思うわけでございます。

○ 庶務課長（小倉澄男君）　まず第一点でございますが、十三社多過ぎやしないか。これは予決令というものがございいます。大蔵省の予算、決算の業者を指名する大もとの基準になっております。それによりますと、最低十社指名というところでございまして、十三社多過ぎるということはないと思います。

それから、今の私が申し上げました四つの観点というのは、必ずしも四つを具備しなければならないというものではないのでありまして、これらのものを基準にして集めたものが市内の石井工務店、計工務店を除く十一社であるということです。そしてこれらは一、二、三のそれぞれの要件を満たしているという点で私申し上げたわけでございますので誤解のないように。

それから、最後の百六十七条の二の關係でございますが、これは指名しなくてはならないかという理由の御質問と聞いたんですが、あくまでも入札は一般競争入札でやるのが本意でございます。しかしながら、一般競争入札といいますが、だれでもかかれても入札の資格があるわけでございます。それこそ日本国中の建設業者を相手に競争入札をやるというようなことで、今までの習慣といましてある程度の指名基準というものを設けて十社以上にしほってやるのが入札の一つの常識でございまして、そのほうがやはりより適切な工事ができ得るというような考え方から指名競争入札の方法をやったわけであります。

指名競争入札をやる場合には、市としては予定価格を決定してやらなければならないわけでございます。そうしてその予定価格を決定して入札に付したところが予定価格にどうしても達し得なかったということで再度入札、二度目にやるのを。それから三度やるのを再度入札、その結果、落札者がなかったということで、それが地方自治法施行令の五

番目に「競争入札に付し入札者がないとき、または再度の入札に付し落札者がないとき。」これに該当いたします。市といましては、競争入札に付してということは、一般競争入札として落札者がなかった。それから指名競争入札に付して落札者がなかった。うちのほうは再度でなくて再再度まで入札を行なつたけれども、落札者がございませんでした。その場合に最低の敷札を持ちましたものより見積りを徴しまして、その見積りを徴した場合にその額がわれわれの予定しております額と大体適合したという場合に随意契約で前回の指名競争入札は御破算にするという形でございます。そういうことで随意契約を結んだというのが経緯でございます。

○ 九番 (辻田 実君) その点については了承いたしました。そこでもって、私の理解力が弱いせいかわかりませんが、けれども、はっきりしておきたいんですが、この十三社の中でもって最初の説明の中にありました一番接近の業者とやったというものでいわれておりました。今の中では落札金額に近いところということでやったということをいわれましたが、その点につきましては十三社中、計工務店が一番近かったのかどうか。この点はっきりさしていただきたいんです。どっちも取れるようなあいまいですから、非常に重要ですので、十三社中一番近かったのかどうか。この点。

○ 庶務課長 (小倉澄男君) いろいろのことを申し上げましてわかりにくくて恐縮でございます。いわゆる予定価格というのは、下にいけば下にいくほど近かよってくるということでございます。計工務店が十三社の中で再再度入札をやったときに一番下の価格を出したということは、予定価格に一番近かったということと計工務店と話し合いしたというところでございます。

○ 九番 (辻田 実君) 入札の関係につきましては了承したいと思えます。

二番目に、この環境基準の問題についてでございます。先ほど渡辺議員のほうからある程度市長との交換があったわけでございますけれども、ここで私は、館山小学校の防音校舎につきましては、よほど慎重をきさなければならぬ点がある。こう思うわけでもって質問するわけでございますが、まず第一点としましては、市長さんは経験、その他の面から冷暖房云々という面が論議されました。しかしこれはこれとしてある程度私は伺っておきたいと思うわけござい

ますけれども、全国にまたがる特に一番隣接の木更津、横須賀におきますところの防音校舎については冷暖房装置はどうであつたかということでございます。

私は過般木更津の教育委員会の人に聞いたときには、非常にその維持費等が重なって冷暖房をつくることはけっこうであるけれども、あとの維持費に悲鳴をあげるので、なまじつか防音校舎にしてみらうてそのときはよかつたけれどもあとの計算をしてみるとどうのという話を聞いたわけでございますけれども、ごく隣接地域また九州の鹿屋とかあいう館山と同じような条件、また館山より温暖の地域における防音校舎、先般伊丹の校舎を視察したときに全部冷暖房が入つておつたのを記憶しておりましたが、あそこらの条件と比べますとさほどのあれはないと思いますが、その点の検討はなされたかどうか。この観点から一つ御答弁をお願いしたいと思います。

○ 教育委員会庶務課長（汐崎政光君） ただいまの件について御答弁いたします。

私のほうの調査いたしましたのは木更津だけでございます。木更津におきましては冷暖房やっていない。これが実情でございます。防音校舎と申しますのは、サッシも比較的良質のものを使用しましてびっしり密閉させるようなサッシが使用されておりました、そのために外気との間の交流がないということとで外から新しい空気をまわすための換気扇が用意されております。そのために夏季における室温というのは普通の建物より換気扇がまわっていく空気の関係でちょっと涼しいんではないか。こういう意見は伺っております。

それから、冬期におきましては、密閉されたが故の室温の上昇といったようなことから、私どもの事情調査しましたのは木更津だけでございますが、木更津におきましては、普通の建物より気温は上るようだ。こういうことと一応伺っております。

それから、防音校舎と申しましても、館山市の場合の実情から考えますと、たえず密閉しておく必要がないんじゃないかと思ひます。航空機の上昇、飛来しますようなとき、そういうたときの密閉だけであとは普通の校舎同様の解放のききます建物。そういうように解釈しております。以上です。

○ 九番 (辻田 実君) その点につきましてはそれでけっこうでございます。

もう一つは、工事に伴うところのいろいろな諸条件の問題でございますけれども、館山小学校は御案内のように入口が一本しかほとんどありません。裏門というのはありませんで、あそこ道路の事情、それから校舎の密閉度、その他からいまして、二月までの間に完成してもらおうということでもって工事云々ということがいわれておったわけでございますけれども、これらの点について教育上相当な影響があるんじゃないかというふうに思われます。これに伴うところの環境整備の問題、その他の問題については支障がないのか。特に通学路の問題、登下校に対するところの脇道の舗装化の問題こういう問題があるわけでございますが、これらの整備、その他は考えられているのかどうなのか。また工事の時間規制とか、そういうものは夜間やるのか、昼間授業中にやるのか、そういう点。そういうものはあるのか。そこらの辺についてお伺いしたいと思います。

この問題につきましては、館山小学校の裏に民間会社が埋め立てたときに、ダンプが一日八十台通るということで相当PTAで紛争が起きて一日何台に規制するというような問題があって、教育上支障があったということであつたわけでございますけれども、防音校舎になりますと、学校の中でもろにやられるわけでございますから、それらの対策はどのようにしておるか。工事の請負の形でどのように話し合いされていくか。そういう話し合いがあつたかどうか。その点についてお伺いしたいと思います。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) お答え申し上げます。ただいまの授業に支障のないよう。あるいは登下校の支障のないような配慮でございますが、これは工事契約締結後において業者と細かく話し合ひまして、できる限りの障害を除去したい。かように考えておりますが、現在のところ、ただ教育委員会のみを考えてございますが、大体館山小学校の現在校舎のならんでおります、大体六棟ならんでおりますあの中間の辺の東側に子供たちの出入りします出入り口をつくりまして、多少まだ高低がございましてはすかけのような形になるだろうと思ひます。それをつくりまして、現行通用してあります正面に面しますあの道路、あれにつきましては、工事量に伴ひまして自動車の出入り

が多ければそこを閉鎖しまして、もっとあそこの東のほうにも迂回して小学校のほうに参る道がございます。その道を専用の通路路そういったことに定めては、この辺の目安だけは立ててありますけれども、今度は契約業者はつきりきまりましてから、その辺の話を進めて参りたい。このように考えております。

○ 九番 (辻田 実君) 予算書から見ますと、それらの経費とかそういうものがちょっと見あたらないわけでございますけれども、それらは追加予算等を組むということなんです。これは本体工事だけだと思います。先ほどの説明でございますと、電気工事費のみ含むという説明であつたわけでございますけれども、私は最近の工事関係というのは本体工事よりも、本体工事にかかるまでの校舎をこわしたり、その後の間道をつくる。抜け道をつくるとか、その期間中ある事業所だとか、仮事務所だとか、普通の家だといふものをつくるというのが莫大な経費がかかるというのがこの種の工事関係の通例になっておりますが、その点についてもどの程度のお考えをもっておられるのか。ぎりぎり一ぱいの予算であるわけでございますけれども、見通しは立ててあるのかどうなのか。その点について伺いたいと思います。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) ただいまの説明のうち、ちょっと間違いがございました。校庭の校舎のならんでおります東側中央に出入り口をつくる。これは予算の中で組まれております。契約工事金額の中に組まれているはずでございます。それから工事中の建物と現在あります校舎との間の境界には、子供たちに事故のないようへいをや、これも一応工事金額の中に組まれております。ただ、細かなものにつきまして、ちょっと私どもの現在存知してありますん部分がございますけれども、組まれておりますことは事実でございます。

○ 九番 (辻田 実君) まあ、とにかく館山小学校の問題については、館山小学校地域内においても相当無理を承知の上でございますけれども、今申したような点で、とにかく北条小学校ですらほかのところ建てて移転する期間云々ということでもってかなり問題があつたように、館山の場合は現地でやるという異例の事態ですから、今言つたことについて十分話し合つていただきたいと思うわけです。その話し合うということは、児童の登下校の問題、できるだけ

授業中を配慮してもらふということや、工期の面については往々にしてこの種の工事については二月一ぱいというものが遅れるというのが多いわけでございます。普通の工事の場合ですと、多少遅れてもいいということはありませんけれども、さほど直接的なあれはないとしても、学校教育の場合には一日が一日、一時間が一時間という問題がありますので、これらについては十分徹底方をお願いしたいということを希望いたしまして質問を終わります。

○ 一番 (山本 昇君) 土 三 お伺いいたします。この館山小学校の防音工事の問題でござりますが、こうしたことをやるということが考え方によればどうかと思いますが、一応現時点においてこういうことをやられるということについてまことにけっこうだろうと思います。ただ問題は、この議案にもありますとおり、改築第一期工事ということがうたわれておりますが、これは全部将来やる考えでとりあえず第一期ということできょういうふうにされたのか。これか一点。

そうしますと、ここにある五千二百九十五万円という数が出ておりますが、予算書との関係を見ますとあとのあれはどういうふうに考えておるのか。翌年度の予算でやるのか。とりあえず今年度の予算については六千万の工事請負費とブールの新築工事というものが含まれておりますけれども、この点の関係を詳しくお教え願いたい。

なお、工事請負費につきましては、五千二百九十五万で随意契約した指名競争入札をしたのだけれども、こちらのいわゆる予定価格に遠くはずれていて指名競争で落札にならなかった。最低の計工務店と随意契約という形でこういう契約をしたい。こういうような考えですけれども、はじめの市当局の考えておりましたいわゆる予定価格と、この五千二百九十五万というもののあれは相当まだ開きがあったのか。あるいはきわめて近かったのか。それをお教え願いたいと思えます。

○ 教育委員会庶務課長 (汐崎政光君) お答え申し上げます。防衛施設庁から補助金の交付の内定を受けておりますのは、総体五、五八四平方メートル、そのうちの今年度分一、二二二・二八平方メートルでございます。こののものにつきましましては、大体四十七年、四十八年に交付の決定が見られることがほぼ明らかでございます。一応実施設計を

しまして国の承認を経ておりますのが先ほど申しました総面積でございます。そういったことから明らかでございますが、ただ、防衛庁のほうの従来の補助金交付の決定の方法が継続工事として認めるのではなくて、単年度、単年度で認めてきている。こういったことからこのようにして交付決定をする。こういった旨の連絡がございます。

○ 庶務課長（小倉澄男君） お答えいたします。山本議員さんの御質問が五千二百九十五万が予定価格と相当開きがあったのかという御質問か、それとも再度入札におきまして計工務店の最低入札ふだが予定価格に相当開きがあったのか。お答えいたします。五千二百九十五万は予定価格と非常にすれすれの額でございます。ほんの僅少の額でございます。

○ 二〇番（君塚喜三君） 辻田議員の質問に関連しまして気がついたので、この際聞いておきたいと思いますが、先ほどの御説明ですと再度、再度の入札においてまだ落ちなかった。だから、計工務店の五千二百九十五万の最低価格に落したという御説明があったわけですが、五千二百九十五万という額はこれよりも予定価格がまだ低かったということであると思います。

そうしますと、予算書の予定価格というのは六千六百七十四万八千円書いてあるうちの神戸プールに一千万組まれておるんですけれども、残りの五千六百七十四万八千円という予算書における予算というものは組まれておる。それよりもはるかに低い、同じ市においてははき出されたものの額というものが出ておるわけです。どういう関係でこういうふうにプラスアルファが相当ついておるわけです。なされておるのか。この点お伺いしたいと思います。

○ 教育委員会庶務課長（汐崎政光君） お答え申し上げます。予算書におきます六千六百七十四万八千円、この中館山の防音校舎建築費として考えました額は五千六百七十四万八千円でございます。当時この予算を組みますにあたりましては、昨年の十月館山小学校の防音校舎をつくるにあつての設計について今年度補助金を交付する旨の連絡のございましたのが昨年の十月でございます。それから急拠設計業者を選抜いたしましたして、設計業者に基本設計を立てていただきました。それを十二月のなかばぐらいまでの間にまとめていただきました。その時点で一応の予算を組んだわ

けでございます。それがこの額でございます。その基本設計に基づきまして、あと実施設計を今年の三月三十一日までかかりまして一応済ましたわけでございます。そのおりの工事の面積は、これは国のほうと話し合ったのでございますが、一、〇八〇平方メートルでございます。しかし、その実施設計をしました段階でいろいろ検討されますと、面積としますとどうしても一、二二二平方メートルをとらなければならぬ。建築単価も一応昨年度より多少かかる。こういったことから今年度に入りまして、この最終的にはこの六月ぐらいでございますけれども、その時点におきまして、今年度の補助金交付の対象となる面積が、一、二二二平方メートル、金額としてこの設計金額でございますが六千四百万、こういった額がはじき出されるからどうか。こういうふうな連絡があったわけでございます。

そういったことから、いろいろ設計業者、国とも、館山の予算が五千六百万でございます。国が実施設計に基づいて検討チェックしました金額が六千四百万、どうしても財源的に不足します。そういったことから国といろいろ折衝しました結果、ではとりあえず今回は本体工事と電気工事のみをやれ、大体五千三百万見当の額で落ちるだろうというふうな設計業者を中に入れての話し合いでそのようなことから今回の入札に及んだわけであります。そういったことからまだこのあと本年度工事としまして換気扇の工事と給排水の工事が財源不足から残っております。これはまた九月の市会においてお願いすることになると思いますが、よろしく。

○ 一八番 (安西益男君) 契約について若干お伺いしたいんですが、先ほどのお話して計工務店が最低であったというところで結局計工務店にして、安い価格ということとは非常にけこうだと思いますが、このように清水建設、大成建設あるいはまた大林組、熊谷組、戸田組そういった一流の建設会社が、いわば手も出ないような値段ということになりますと、安いはまことにけこうでありますけれども、今までも往々にして校舎の故障箇所が非常に短期間のうちに出ておるといふ点がしばしば今日まであったわけです。当市にはございませんけれども、県内にも何市かございました。そういった点で心配の点が残っておるのではないかという点があると思うんですが、それと実績があるものということは一つの条件の中に入っておったようにも聞いておりますが、特にそれにこだわらないというふうな回答もありましたけ

れども、しかし技術とか、あるいはまたこういった新しくこの防音校舎をつくるということになりますと、そういった技術面、経験等がある程度 of ウェイトを占めてくるのではないかと、このことを心配するわけでございますが、したがって工事中における監督といいますが、監督機関を設けるとか、あるいはそういった工事における監督の関係はどのように考えるという面についてまずお伺いしたいと思います。

○ 庶務課長（小倉澄男君） お答え申し上げます。ただいま非常に重要な御質問でございますが、私、技術担当の所管の課長でございますので確言はいたしません、しかしながら契約担当課といたしまして、この工事施行中契約の段階において工事現場監督において、それから市のほうも現場監督人を指定しまして終始監督するというのが契約条項の中に入っております。でありますから、工事はいろいろの不正とかそういうことはないように両者が注意しまして実施しなければならぬことは当然のことでございます。

なお、計工務店、石井工務店地元の業者でございますして、特に今回大手にまじえましての指名をいたしたわけでございますが、このたびの業者選定にあたりましては、防衛庁としましては、非常に重要な工事であるから指名業者が決定したときには実質的にも、内容的にも検討するから一応相談にあずかってほしいということ、防衛庁当局もこの石井、計工務店ならば指名業者に入れてさしつかえないという本当に大手に伍しまして遜色のないことは申し上げるわけでございます。

○ 一八番（安西益男君） 十分監督されるというお話してございますが、今までもやはり市営住宅等におきましてはしばしば他市におきましてもそういった箇所があとから出ておるといふ例があったわけですが、そうした面で十分監督ということはいい得るわけでございますが、とくとその点におきましては、やはり学校ということだけに十分監督の面でも手抜かりのないように、そういう方法で進んでいきたいと思っております。このように要望いたしまして終ります。

○ 一三番（五十嵐昇君） 館山小学校の防音校舎の建設につきまして、いわゆる大要が議会の議員の方々の御質問でわかったわけでございますけれども、私、一点だけ要望申し上げたいのでございます。

工事の進捗に伴いまして非常に資材の運搬、その他に対して自動車の出入等が非常にふくそうをきわめておる。これは当然考えられるわけでございます。したがしまして、生徒の少しでも迂回してでもそういった交通事故から生徒を守るという配慮のもとに、生徒の専用の通学道路というふうなものを御設定になるお考えがありや否や。これが一点。

第二点といましては、あの県道を使用するとしたならば、自動車特に西岬方面に至る自動車のふくそう、それから現在正門に通じます道路をトラック、その他のダンプ等のそういう自動車があそこを通るといふことになりまして、二重にも三重にもふくそうをきわめてくるわけでございます。したがしまして、あそこに歩道橋のような児童が登下校に関しましてともすると朝晩などにおきましては、一刻を争うというようなことで不慮の交通事故等も考えられるわけでございまして、あそこに歩道橋のような児童の最も安全に向こうに渡れるというような施設の考えありや否や。この二点につきましてお尋ねしたいと存じます。以上です。

○ 教育長 (高木 正君) 先ほど辻田議員さんから御質問がございましたけれども、私たちはまず子供たちの迂回路東側の道、それから登校時における運搬ダンプの出入は時間制限いたします。それから子供たちが帰るときは時間的に非常に違いますので、そのときにはできるだけ中央道路、正面に入ってくる中央道路は何とか避けさせたい。そういう考え方を持っておりますので、学校側と業者との三者の間で適切なあれをしたいと思っております。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 歩道橋につきましても、関係者と相談して検討していきたいと思っております。他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議があるようでございますので、起立により採決を行ないます。

本案は、委員会付託を省略することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 起立多数。よって委員会の付託は省略と決しました。

討 論

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより討論を行ないます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 先ほどの質問に対する答弁を伺いまして、この問題に対する基本的な立場から反対討論をしたいと思います。

というのは、航空機の騒音公害による立場が全市民の立場に立って館山小学校の防音校舎のことが考えられるというようなことにはなっておりません。ただ、館山小学校の防音校舎の建設ということだけが、これが騒音公害の全体の中からだけ考えられて笠名地域や宮城地域の市民を騒音公害から、市民の暮らしを守るといふような立場に立って今まで対策が立てられてやってこれなかったという点が一点であります。

さらに、先ほどの回答の中では生徒の立場に立って冷暖房の設備がされないということとこの校舎の建設が進められようとしております。この点については生徒が本当に勉強できるような快適な環境をつくるという点から見れば非常に不十分であります。こういう点から、この議案に対しては反対の立場を表明いたします。以上であります。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採 決

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより起立により採決を行ないます。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

- 議長 (吉田勇治郎君) 起立多数。よって本案は原案通り可決されました。
暫時休憩いたします。

午後二時二十七分 休憩
午後二時五十五分 再開

- 議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

- 議長 (吉田勇治郎君) 議案第六十六号館山市教育放送センター条例の制定についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第六十六号 館山市教育放送センター条例の制定について

議案の内容説明

- 議長 (吉田勇治郎君) 説明を求めます。

- 学校教育課長 (吉田隆夫君) 議案第六十六号館山市教育放送センター条例について御説明申し上げます。

第一条の設置でございますが、去る三月の定例市議会において議決いただきました教育有線放送施設でありまして、幼児教育、学校教育、社会教育の振興をはかろうとするためのものでございます。

名称及び位置でございますが、名称は館山市教育放送センター、位置でございますけれども、館山市北条四百二十番地の一、これは現在の北条幼稚園の西側に位置をきめようとするものでございます。

第三条業務でございますが、いわゆる非常にいそがしい学校あるいは教師に現在いろいろ同様な教育思潮があるわけでございますが、あるいは指導方法についてもいろいろな指導方法がありますので、そういうものをわかりやすく提供しようとするものであります。第二番目には、教育効果を高めるための資料の作成や収集を現場に提供したり、あるいはこれを保管しておいてあとで必要に応じて提供しようというものであります。三番目には、そのほか教職員の研修だとか、各学校の紹介等目的達成のための業務を行なうということでありまして、これらの業務を通して私たちは地域格差の縮小と教育近代化の促進をしていこうとするものであります。

次に、管理でありますけれども、館山市教育委員会がこれを管理するというところでございます。

職員でございますが、業務遂行に必要な職員を置くということでございます。

第六条委任でございますが、放送センター運営上必要なことは教育委員会が別にきめるということでございます。以上簡単でございますが、説明を終わります。

質 疑 応 答

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本案に対する質疑を求めます。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 放送センターの実態についてこの条例だけでは、教育の内容等につきましてもちょっとわかりにくいんですが、少し御説明をいただきたいと思っています。

一つは、テレビ放送による教育のシステムといえますか。これの概要を御説明をもう少しいただきたいと思っています。

もう一つは、テレビで放送するわけですから、それらの番組の遍成だとか、あるいはこの施設を使う上での組織が私には必要になる。当然これを運用していく組織といえますか。そういうのが必要であらうと思いますが、それらはどういうふうな組織になるのか。それには先生方の要員措置といえますか。おそらく番組をつくったり、それを放

送したりして運用していくこととなりますと、今までの人たちでは足りないのではないかという気がするわけですね。その要員措置等については一体どういうふうになっていくのか。これらの点についていわば放送センターの機構というんですか。それをどういうふうに教育上使っていくのか。こういう点について私もまるきりしろうとですからしろうとにわかりやすいように御説明をいただきたい。こういうわけです。

○ 学校教育課長 (吉田隆夫君) 最初に放送内容について申し上げます。

まず、私もは、いわゆる子供向けと教師向けとこういうふうに考えたいと思います。その子供に放送するわけでございますけれども、その一つの基本的、原則的に考えますことは、あくまでもテレビで学習をするのではない。教育はあくまでも現場の先生が子供を前にして授業をすることが原則であるとしめすと、テレビというものはそれを助けるもので補助的なものに使っていきたい。こういうふうに思います。そういうところから子供に向ける内容というものを考えておるわけでございます。

第一に、子供に送るものといましては、いわゆる学習のかぎになるような部分資料を一定時間繰り返し放送しようということがあります。いわゆる学習のかぎというのは児童、生徒が理解したり、考えたりする際のきめ手になるような資料ということでございます。いわゆる部分資料ということでございます。それで、そういうものを一定時間たとえば十五分なら十五分間の一つのセットとしますと、それを説明なしで繰り返しを送ってやろう。そうしますと、現場の先生はそれを始めに使ってもいいし、中ほどに使ってもいいし、二回使ってもいい。その使い方は現場の先生方の自由にしよう。あくまでも授業というのは現場の先生方が子供を前にして学習していくんだ。あくまでも授業の主体は先生方であってテレビではないということが私たちの考え方です。ですから、使い方は現場の先生方の自由である。そういうものが学習のかぎになるようなものやっいていこうということが第一でございます。

第二番目に考えますのは、ほかの学校の学習の状況をこれを送ってやろう。今まで学校というところは、いわゆる自分の学校だけでほかの学校の子供たちはあまり知らない。たとえば、朝会のやり方とか、子供会のやり方とか、保健活

働のやり方というのは他校のものはあまり知りません。そういう面からほかの学校のものを全体に送ってどここの学校はどういうふうにやっておる。こんな活動をやっておる。こんなに効果を上げておる。こういうものを送ってやろう。第三番目に考えておりますことは、習慣形成にどの先生が教えても、どの学校でも同じようなやり方で、同じような効果をねらっておる。たとえば、手の洗ひ方だとか、廊下の歩き方だとか、交通安全指導とか、そういう一般的な大して考えなくても身につけなくてはいけないようなことは、これは一斉にやったらどうか。こういう教育効果を高め。そういう場合に、先生方は個別個別に、個人個人でなくてやっていく。それから中学生のための基礎的なものといえますか、英語の発言だとか、インツネーションだとかあるいは漢字の書き順だとか、読み方だとか、そういう基本的なものを一斉に送ってやろう。自主的な面は阻害されないもので大いにそういうものをよい指導者によって指導したらいんじゃないか。現在のところそういうようなものを子供向けには現在考えております。

それから、教師向けといましては、さっき申し上げたんですが、いろいろの教育の考え方、いろいろな学者の考え方というものが散乱しておりますので、そういうものを精選していろいろな考え方が、こういう制度がある。だけれどだれがこういう考え方を持っておるといふことをいろいろなわかりやすく説明してやる。それから教師向けの第二番目には、小学校の先生でいいますと、一人で八教科教えずにわけていくわけですね。ところが私はじめそうでございますけれども、なかなか八教科をこなすということは容易なことではありません。それぞれ得意、不得意がございます。そういう人たちのために得意な先生の教科を教科研究をながしてやりまして、不得意の先生方がそれで勉強しよう。あるいは中学校に参りますと、現在の中学校の編成でございますと、英語の先生がおらなくても英語を教える必要はないという現在の学校によってはそういう状況がございます。免許外、免許を持たない教科を教えている教科が幾つかございます。そういう先生方のために教材研究、教える方というものを流してやる。そうしますと、今まで先生方が一生懸命夜遅くまで教材研究やらなければならなかった。そういうものによって間に合わせることによって教師というのは子供たちにつく時間が多くなるわけでございます。私たちのことを考えますと、子供と遊んだり、放課後子供とおにごっ

をやったりする。非常に子供と接触することは大切なことでございますが、多忙のためにそういう時間がまけられない。こういう人間教育というものの知的教育だけでなく、人間教育というものをもっとそれによってやってもらおう。現在私たち考えておりますことは、こんなところの内容を考えております。

それから、組織でございますけれども、私たちはこれを運営していくために番組の編成委員といいますが、そういう番組を構成する委員をまず考えております。それは各教科領域というものはどんなものを、どんな内容のものをつくつたらいいだろうかということを決出し、考えていく会でございます。その下で資料作成委員、教材作成委員会といいますが、教材作成委員といいますが、番組編成委員においてこういう番組を、こういう教科をこんなところを流したいいかということを受けて、ではその資料はどうつくりうか。だれがどうつくりうかということを実際に自分たちでつくったり、あるいは現場の先生方に教材研究なんかをお願いしたりということをしていくのが教材の作成委員、あるいは作成委員会、そうして送られましたものを私たちは効果を測定しなくてはいけないと思ひます。実際にやられましたものを効果があつたか、どのぐらい一体利用したのか。私たちはこれをやるために時間割を統制する考えもございませんし、もちろんこのようなカリキュラムに立ってこれを教えなさいということもやる考えは毛頭ございません。ですから、こちらから何月何日何曜日には何学年のこういうものを送りますというものは流します。現場でそれをどう使うかということについては、使つて効果があつたのかないのか、それをもっと改善したらいいかどうか。そういう効果判定委員会と仮りにいっておるわけでございますが、そういう組織をつくりましていい。今のところこの点に關します組織としてはそれぐらいを考えております。

それで、私たちはこういうものをやっていきます上に、センター要員というものを完全につくりまして、その人たちが自分たちの考えで、その要員だけの、センター要員だけで自分たちの考えで、自分たちの主張で教育の資料やそういうものを流そうという考えは毛頭ございません。センターの人たちもちろんそういう考えを持ちますけれども、いわゆる現場の人たちのなまの考え方、なまの教材研究が非常に大切だと思ひます。そういう面からみんなの力で教育委員

会のものではないみんなの一人の教師の力を自分の学校や学級だけに引用させるのではなく、全市の教育向上のために提供させよう。そういう考え方で現在進んでおります。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 大体わかりました。ただ、要員のことですけれども、みんなで番組をつくる。みんなで館山市の教育の向上に尽していくんだということわかるんですが、しかしそれだけですね。新しい機械を一〇〇%といえるかどうかは別として運用して、教育効果を上げようということになると、その場合ふだん自分たちが使っておる力以上に時間もおそらくそちらのほうに相当時間をさかなければいかぬだろう。したがって、いわば先生の立場からすればこれによっての労働強化といいたしうか。あるいは時間外の勤務といいたしうか。そういうようなことも相当私は考えられると思うんですけれども、これらについてのまあ要員も私は今の先生方だけでやりきれぬのかどうか非常に疑問がありますし、しかも新しい機械を教育に取り入れ運用していくということになったら軌道にのるまで非常な努力非常な時間というんですか、そういうものが必要に違いないというふうに私考えますが、それらについての配慮ですかどうかというふうにお考えになっているか、お聞かせ願いたいと思います。

○ 教育長 (高木 正君) 引き続き申し上げたいと思います。

まず、センターの要員にはできるだけ機械の操作を中心にやっていたきまして、センターの少数の職員で館山市の教育が牛耳られることがあってはいけませんので、これは課長から申し上げましたとおり、あくまでも現場を中心に組織して運営していく。機械の操作でございますけれども、これはできるだけセッ트에組んでもらいまして、簡単に操作できることを第一条件にお願いしてございます。

私たちは、伊豆の下田の民間の放送所にも行きましたけれども、調整の機械などは高等学校を出てまだいくらもたない子供が上手に調整をやっております。カメラも非常に若い人たちがやっております。私たちのほうでは現在の北条小学校でカメラを使った。それからVTRを使った職員。ビデオを取ることを実際やっておる職員、それから新しい機械についての、その機械にのせる教材をつくる経験のある職員をスタートにおいては採用してございます。

それから、二番目の教材をつくることになりますと、確かに現場の協力をあおがなければなりませんし、あおがないと職員を受け身にしてしまう。これにつきましては、私どもは研修として教材づくりをしたいということと同時に、教材をつくるときにわずかでございますけれども、一件について三千円ずつ支払い得ることのできるようにとりあえず八十件ぶり予算を見積ってございます。さらに放送センターの運営費のほうにも教材をつくるための予算が取ってあります。

○ 一九番 (島野茂樹郎君) 大体わかったんですが、非常に新しい設備である。新しい教育の方法ということになるうと思うんでせっかく一億何千万という大きな金をかけてこれがうまくできないということになると、非常にむだな投資をしたということにもなります。

それから、逆に心配されるような教育の格差の是正という考え方はわかるんですが、逆に格差の是正ではなしに教育のへんな形での支配というようなそういうような面もどうかすると現われる危険性も私は含んでいるというふうな気もいたします。したがって、これの活用といましようか、運用といましようか。非常にやはり気をつかっていただかなければならないことだし、これらの特に聞くところによると、日本ではじめての設備だというようなことですからいわば研究材料というような形になってしまいかもしれませんが、少なくとも当初の目的を達成するように、これは教育委員会の皆さん方だけではなしに、現場の先生方も一生懸命やらなければならぬと思いますが、そこでやはり一生懸命にあまり負担をかけ過ぎるというようなことがあってもこれはやはり問題が起ってくるのではないかというようなことも懸念される。そういうような点を十分調和を取りながらやっていっていただきたいというふうに私は考えるものです。

設備のことでお聞きしておきたいと思いますが、三元映像受信装置というのが合計で十八、幼稚園、公民館これらの数が書いてありませんけれども、これはどうなっているか。幾つづつになるのかということ。幼稚園と公民館の数を教えていただきたいと思います。

○ 教育長（高木 正君） 幼稚園九つで、公民館十でございますが、ここは一元放送をしたいわけでございます。

それから、小学校と中学校は、三種類の放送を同時に送って学校側がそれぞれ子供たちのために使えるようにといったような、そういうことをするわけでございます。そうしますと、北条小学校には現在二元でございますから、もう一元ふやして三元、三元自体のものは神余小中一緒にありますので十八というところでございます。以上でございます。

○ 一九番（島野茂樹郎君） ちょっと聞いたところによりますと、このシステムは館山市だけでないということを聞いておりますが、その点はどうなっておりますか。

○ 教育長（高木 正君） 先ほどのちょっとつけ加えさせていただきますが、全部の小、中学校にVTRの機械一セットずつ配りまして、自分の学校で独自でビデオが取れる。

それから、現在の段階におきましては、市内の小、中学校、幼稚園及び公民館だけを考えて準備を進めております。○ 二三番（菊井敏博君） 教育の格差がですね。現在例をとりますと、北条小学校極端にいいまして畑というところとは教育格差においてはなほだしい違いがあると思われまします。こういうものを地域格差をなくして教育の是正をはかるという意味におけるテレビ放送には非常に賛成するものでございますが、実際のいってこれが機械の格差がなくなるのか、このテレビ放送によってどういうふうな、何といいますが、なくす方法ですね。実際にこういうふうにするからなくなるのだということをお教えいただきたいということ。

それから、テレビ放送をながした場合、必ず現場で見なければならぬのかということをお聞きしたい。

それから、先ほど一九番議員さんと関連しますが、非常に放送作成するにあたりまして実際にいって経費もかかるという意味合いにおかれまして、現場の先生方を使うと思うんですが、この現場の先生方の負担が重くなり生徒を犠牲にする。自習とか何とかというようにしてかえって逆な面が出るんではないかということが心配されるので、その点を聞きたい。

それから、第六条に「この条例に定めるもののほか、放送センターの運営について必要な事項は教育委員会が別に定

める。「これは非常になんかあなた方の都合のいいことは、別に定めるということで受け取られますが、今後放送セン
ターを運営を通じて非常に教育委員会の力が強くなって中央集権化のおそれがあるのではないかということが危惧され
ますが、その点。以上お聞きしたいと思います。

○ 学校教育課長 (吉田隆夫君) お答え申し上げます。いわゆる格差是正ということでございますけれども、現在非
常に教育機器が発達しております。教育機器を各学校に買ってやることも一つの方法だと思います。ところが、いわゆ
るお金があれば買ってやれるわけでございますが、経済的な面で可能だと思えますが、一番問題はその中身でございま
す。その機械がありますと、必ずそこに入れて子供たちに指導しなければならぬ。中身を入れなくてはならない。そ
うしますと、これにつきましては大きい学校ほど有利でございます。といいますのは、北条の小学校に例をとりますと
たとえば国語という面でございますと、五人も六人も仲間があるわけでございます。畑でございますと一人いるか、と
ても確保できない。六学級の学級でせいぜい一人ということになりますと、その中身が小さい学校ほどつくれない。大
きい学校でなければつくれない。こういうことから、機械は相当現在入りつつありますけれども、そういう面から機械
が入れば入るほど、そういう面からの格差というものが開いていくというふうに考えられます。

そういうことから考えますと、いわゆる全部の館山市じゅうの教員を組織しまして、有線テレビというものを中心に
してそういうものを研究し、それをみんなに同じようにながしてやるということになりますと、非常にいわゆる教育と
いうものがそういう面から考えました場合に格差が是正できると思えます。たとえば、一つのことを考えさせる場合に
現在ば理論的にいろいろのことを、これはこうなって、こうなってこういうふうになるのだから、こういうふうになる
のだよというわけが多いわけでございますが、いわゆる全部が全部そうやるのではなく、資料に基づきまして目で
見て直観的にああそうか、わかったということが非常に大切なことでございまして、そういう面から考えますと、いい
資料を同じようにどの学校にも同じようにながしてやるということは、教育効果を高める上から非常に大切ではないか。
現にそういうことをやって非常によくできておる資料もあるわけでございます。そういうものを考えておるわけでござ

います。そうして格差を是正していく。

それから、畑と北条の例をただいま出されたわけでございますけれども、たとえば、交通安全指導なんかによりますと、畑と北条では格段の差があると思います。子供たちの交通安全ということになりますと理論ではございませんで、実際その場に行つてそれぞれ指導しなくてはいけないということが大切でございます。ところが、畑の子供たちが現場に行くということは非常に経済的にもできないことでございまして、そういう場合には、現場に行つて見ながらやるというその次にいいのが絵や写真で見ながらやるのが大切になって参ります。口でということが一番わるいと思います。そういう面から、格差というのは完全に全部同じになるということとはこれをやったからすぐできないと思いますけれども、そういう格差というものは少しづつ縮小されていく。縮小していきたい。こういうふうに考えるわけでございます。

それから、第二番目に見なければならぬかという問題でございすけれども、私のほうはそれは毛頭考えません。結局私たちのほうの効果判定としては見なければならぬ資料はよくなかったというふうに私たちは判定したいと思ひます。このものを教える場合に一番大切になる資料は、この程度、それをどういうふうにながしたいということをみんなて、何人かで研究してながすわけでございます。ただ、私たちのほうは何曜日の何時間目は何年生のこの教材のこの資料をながしますよということは現場には通知したいと思ひます。それを必ず見なさい、見るんだということは考へておりません。

それから、現場の教師の負担が重くなる。確かに運営の仕方というような問題があると思ひます。私たちは、現在でもいそがしいのにそれ以上にいそがしくしないように、これをどう一体使つたらいいかということを含後考えていかなくはならない一番問題だと思ひます。これがあるために今までやっていたことがおろそかになってしまつて有線テレビ一辺倒になることは一番こわいことでございます。

私たちは教材研究、先生方にお願ひしまして、たとえばこの三年生の館山市の社会科の館山市の地形なんかを教える場合に一体どういうふうに教材研究をやつたらいいかということがある先生に頼みたいと現在考へております。ある先

生はそれをりっぱに紙に書いたり、色分けしたりすることは現在考えていない。その先生がいつもやっているような教材いわゆるノートとか、模造紙とか、わら紙とか現在やっているような方法で、そういうもので送ったらどうか。NHKみたいなりっぱなものをつくるということは考えておりません。そうしますと、その一人の先生は確かに送るということになると、ある程度専門的にも考えますから時間はかかると思いますが、ほかの先生方はそれより教わればいいわけです。それを見る。また自分で考えてもいいでしょうし、それをそのままやるということもあるでしょうし、大部分の先生方はそれを見ていく。そういうことから手数がはぶける。そんなことに考えられるわけでございますけれども、そういう面は十分注意して研究していきたいと思っています。

それから、最後にありました中央集権ということも十分考えて運営していきたい。こんなふうに考えております。

○ 二三番 (菊井敏博君) 私は、第一番目は、現在の町場といなかでは、だいた知能が遅れているというところとおかしいんですが、やり方を見ても多少違う。僻地の子供と町の子供では理解できない面があるのでないかということを考えてお聞きしたわけです。

第二番目は、テレビ放送は見ても見なくても自由だということなんですが、見ても見なくても自由だというふうにいわれますと、これだけの大金をかけてこれだけの設備をしてやる放送が何の意味があるかということが非常に疑問に思えるので、その点もう一回お聞かせ願いたいと思います。

それから、このテレビ放送は普通私聞いたところによりますと、一時間もので最低七十万から八十万かかるということも聞いておりますが、現場の職員を使って材料をつくってやれば安い金額でやれるでしょうが、それにしても膨大な金がかかると思う。年間を通ずるとこれに対する裏づけの予算はあるのか。その点お聞きしたいと思っています。

それから、最後の中央集権化のおそれは今後たぶんにあなた方の運営次第によっては出ると思いますが、その点はないように運営してもらいたい。このことをお願いします。

○ 教育長 (高木 正君) 町の子供といなかの子供を比べますと、いなかの子供のほうが発達段階からいいまして、

具体的な操作を経なければなかなか理解できないという面と、理解に時間がかかるという面で差がございました。こうしたような資料、有効な資料を送ることによってそうしたような面も次第に縮小してくると思います。

それから、見ても見なくても自由だといったようなことにつきましては、先ほど学校教育課長のほうからも、見なければわれわれのながしたものがわるいということ、少なくとも私たちは見なければ損だというようなそういうものをながしたいと思いますし、さらに現在現場の先生方は自分の得意な領域と不得意の領域を持っております。北条のように大きい学校では得意の領域を持つ教師が中心になりまして、学年班で横の連絡を取りましてチームティーチングを組んで子供たちを教えております。そういったものが館山市全体としてできるようにしますので、特に自分の不得手な面については積極的に利用してくださると思って期待しております。

それから、予算につきましては、たとえば先ほどNHKの話が出ましたが、現在の放送局でやっているような起承転結のはっきりした二十分間のもので、まずテレビの中で問題が提起される。その問題を解決するためにはどうするかというのを完璧までに検討し、それに応じた実験なり、調査なり行なってそうしてそこから結論を出す。そういったようなものだとずいぶん金がかかると思います。そういう放送をながされますと、それについての授業をやらなければならぬ。私たちのほうはむしろもっと課長から話がありましたとおり、なまなましい現場の必要にこたえて順次充実したものにしていこうということでございますので、運営費の中の特に消耗品とかそういったものについては一件当たり八十万円といったようなことは全然予想してないわけでございます。

それから、中央集権化ということ、それから各学校が画一化するということ、一人一人の先生が受け身になる。この面については私たちのほうでは十分警戒してその運営については現場に積極的に参加してもらいたいわけでございます。しかし、この面については十分留意しなければならないと思って自戒していきたいと思っております。

○ 二三番 (菊井敏博君) よくわかりました。ただ、この運営について教育委員会のあり方というんですか、学校のランドセルから始まって温水プール、また保育料の無料と、またさらにこういう問題が出てきて、私いろいろ考えて不

満の点が多いんです。しかしながら、皆さんを信用してとにかくいい教育をやっていただきたいということを希望して私の質問を終らせていただきます。

○ 二二番 (田村源治郎君) この条例の第一条「本市は、教育機関に教育資料を提供する」本市の教育機関に対する人員、構成そういうものをお聞かせいただきたい。

それから、第一条の教育資料であるが、第三条の教育の情報の提供に関するところ。この情報はどこから取り入れてくるという点。

それから、三条の二、教育の資料を作成いわゆるそれをつくる。放送にながす資料の作成は人員の構成、人格、収集それを管理してこれを提供するという段階をはっきりどういうことでしていくか。

それから、二三番議員がいったとおり、第四条の放送センターは館山市の教育委員会が管理する。教育委員会がこれを条例をつくって管理するのだ。いかような運営方法でもよろしいのか。市はそれには全然タッチできないのか。

それから、第五条の放送センターの職員であるが、これは何名ぐらい事務職員、その他の職員を置くものか。これらに対してお聞きしたいと思います。

○ 教育長 (高木 正君) 法規に關係することは担当の課長から申し上げたいと思います。

まず、教育機関に教育資料を提供するというところでございますが、教育機関とは市内の小、中学校及び公民館、幼稚園を考えております。

それから、教育資料やその教育情報は一体どこから持ってくるんだということでございます。どういうふうにして収集するのだということでございますが、これは次の教育資料の収集、作成、管理及び提供に關することと關係いたしますので申し上げますと、先ほど学校教育課長のほうからお話し申し上げました組織でございます。その組織の中で一つ抜けてあるものがございます。というのは、まず運営委員会をつくります。運営委員会との關連において番組編成委員会ができ、その番組編成委員会の要求にしたがってその番組の内容がきまりますと、具体的な教材をつくることになり

そういうふうにして運営委員会、それから番組編成委員会、それから教材作成委員会、それから教材開発委員会という名前でもいいと思いますが、そういう順序で行ないます。その中で教育委員会も指導ということをやりたいと思っています。

それから、放送センターは館山市教育委員会が管理するというところでございますが、物的な面については私たちが責任を持って管理しなければならぬと思いますが、運営という面については現場と十分協力してやらなければならぬと思うわけでございます。

それから、放送センターに事務職員、その他の職員を置くということでございます。現在は七名に、県の教育研究所に長期研究に行っております職員が一名加わりまして八名でやる予定でございます。当分の間八名で運営していきたい。これをふやせばふやすほど放送センターの教育内容に対する管理能力が強くなってくるので、あまりこれをふやしたくない。できるだけ少ない人数で機械の操作とか、そのほかたとえば、教育資料を作成するときに運営委員や番組編成委員がきめたときの具体化なら具体化のときに放送センターが手伝うということにしたい。足りない分は現在の教育委員会の事務職員がお手伝いしたい。そういうふうに考えております。

〇 二二番 (田村源治郎君) 今、聞きますと、第一条はいわゆる学校、公民館、その他から教育機関に資料を提供するということを説明しましたが、まず、公民館、その他館山市現在行なっている教育の資料の提供、外来の新しく考える中央、その他諸機関からくるものでなくて、本市の現在行なっている教育の、中央の教育ならそれにおいて格差があるのを是正するような公民館、小学校だ。教育格差がある。学校の資料提供だとか、いい学校の資料提供のみに聞かえるけれども、新しい教育機関にこのテレビ放送をして中央、東京あるいは全国、あるいは特別教育の発達した方法を入れることが格差是正をするための教育機関にそれを、教育資料を提供させるような方向にいておる。いろいろ鷹漁村と中央と教育の仕方がある。教育というものは、格差があるように見ても基本的教育でおそらく格差がないだろうと思う。現在行なっている本市の教育機関の資料を提供させて教育をしよう。もっとよりよい教育資料を考え出す委員会を

組織するなら、委員がもっと責任を持つことをしないで運営委員会にのみまかせるのか。教育は運営委員会の責任か。管理する委員会でなくてそういう面かどうか。第三条教育情報もこのとおりである。第五条放送センターにこれだけの事務職員八名をもってあたらう。八名で済むか。今後ふやさないか。八名でやれるか。それらをはっきり答えていただきたい。

○ 教育長 (高木 正君) 第一の面でございますけれども、私たちの説明がわるくて申しわけございません。私たちは、現在の教育の近代化に伴う問題的現象にばかり強調して御説明申し上げましたので、田村議員さんのような御批判が出たことだと思えます。まことにごもっともだと思います。

私どもは、積極的に近代化のために教育情報は流して参ります。ただ、流す場合に中央の大きい学校からだけでなく、学校の名前をあげるのはいかがでしょうかと思えますが、西小学校は授業なら授業を見ますと、活動する子供が非常に多い。非常に発表する子供もおりますし、それから一中の子供を見ますと、一年生、二年生、三年生も同じように積極的に発表して、そういう特色がございます。そういう特色は大きく取り上げて流していきたい。

それから、教育委員会がもっと責任を強く持てということは、まことにそのとおりで私たちも積極的な指導はしたいと思えますが、そのことが中央集権化とか、それから画一化とか、受け身化とかにつながるように十分留意して指導していきたいと思えます。

それから、事務職員、その他の職員でございますが、現在八名でやっていきたいということでございます。八名といえますのは、スタジオと調整室と教材室これは各学校に放送するだけでなくて実際に持っておる教材を各学校が必要だといったらビデオに取って配ってやるとか、複写にして配ってやるとかいう人数を考えて八人必要だということで当分これでやってみたいということでございます。

○ 二二番 (田村源治郎君) この教育委員会が管理をするということになると、いわゆる中央の集権者である。確かに教育委員会が管理するということになると、全教育の最大限を持っていることである。市の当局は口をはさむことは

できない。その放送に対してもいかに教育がどうであろうと、こうであろうと市当局、議員も口を出すことはできない。今、教育長がいっておるけれども、ただ近代化というけれども、いかなることを近代化したというのだ。いわゆる放送センターをこしらえても教育が全国的により以上の館山市の教育をつくり上げるための教育センターではないか。それなくして近代化、近代化といっても何が近代化だ。条例を近代化する。条例の内容に書かれておる近代化の資料をわれわれは提起して同時に条例をつくり上げるのが本筋である。近代化という教育の基本はどこにある。近代化の教育、近代化の資料そのものは教育長示していただきたい。それをお聞きしたいと思います。

○ 教育長（高木 正君） 先ほど私のほうで申し上げました現在の教育を近代化していくために、先ほど申し上げましたような問題があるわけでございます。教育量の増大に伴ってそれを一体どうしていくか。また増大に伴って教育の格差が出てきた。それからまた、教育が知識や技術に中心がおかれて人間形成の本質を忘れてきた。教師が理論的研修が多くて、専門職としての具体的な力を身につけるような研修が少ないんじゃないかというような、そういう近代化のためにいろいろの問題があるわけでございます。

到達するところは、一人一人の子供がその自分の能力に即して最大限の個性的な成長をするということでございますので、そこまでいく前段階においてこういったような近代化のために問題を克服していかなければならない。そのために、私たちはぜひこうした施設、設備を使っていきたい。そうして現場と協力しながら現在の問題を解決しながら館山市の教育の向上のために資していきたい。そういう考え方でございます。

○ 二二番（田村源治郎君） 今、教育長は教育の近代化ということとは格差のない教育、当然格差ということはいかなるものであっても中央と、中央からはずれたところは格差があつてしかるべきだ。格差というのは社会的に繁華なところとへんびなところによる交通、いろんな問題点における社会的に覚えるというものが違ってくる。道具、なまり、テレビのないところはその道具すら覚えられない。教育の基本に対する本というものについては格差というものはおそろくないはずだ。三崎だつて北条小学校においても、もしそれを一つのテストをするならばおそろく格差はないはずだろ

う。いわゆる社会情報いわゆる近代化いろいろのことを教えんがためのものではなかるうか。教育の基本以外のものを教える。提起に対する近代化をねらってこの放送テレビを始めるんではないか。そうでなかったらこの放送センターなんかおそろくない。それ以外のことを教えてそれ以外のものを覚えてもらう。それ以外に使用し、かつ生きようとするのではないか。それが近代的教育のものではなかるうかと思う。教育長の持っている、はっきりしたこれをこしらえるといふのがよくならないという現実に見合うような態度、施設を一つ一つ説明していただきたい。

○ 教育長 (高木 正君) 私、お尋ねの意図がよくわからないで申しわけございませんけれども、たとえば現在の数学については集合という考え方を教えなければならぬ。この集合という考え方は、私たちが小学校に行っているときには、高等数学の考えだということで私たち教えてもらうことができなかったわけです。それを小学校の時分からやる。そうやってきますと、数学の得意の先生ならわかりますけれども、そうでない先生方にはなかなかわからないわけでございます。そういう先生方にも確実な指導ができるようなキーポイントになる資料をつくってやりたい。そういうようにして私たちは一つ考えたい。

それからもう一つは、先ほども申し上げましたとおり地域地域によって学習のテンポとか、学習の具体化というものが同じ効果を上げるのに違ってきます。学習の過程が違ってくるわけでございます。そうしたものにもしられるようにこの資料を流したいわけでございます。

それから、先生方が非常に仕事が多うございますので、先ほど課長から申し上げましたとおり、たとえば交通安全とか、保健の慣習的なものをこれをして、そこで浮いた時間で次の日の準備がよくなるとか、そういったような間接的なプラスもここで生み出したい。それから放送内容を通して直接的なものやりたい。直接的なものは内容に近代化だけでなくどの子供もそれぞれの学習の方法なり、過程なりがだいたい地域的にも違ってくるものですから、そういうものにも十分応じていくということ。これも近代化の一つでございます。そういうことをしようとしているわけでございます。以上でございます。

○ 二〇番 (君塚喜三君) 関連質問いたしたいんですが、ということとは放送センターの設立についてはすでに三月議会において議決をみておるわけですが、しかし前の轍を踏まないようにしなければならぬということであえて質問するわけでございます。三十九年に購入せられましたシンクロファックス、これについてはほとんど今ではたな上げされておるといふことも私は聞いたわけでございますが、これについての教育効果をまずお尋ねいたしたい。

○ 教育長 (高木 正君) 少なくとも、私も三十九年頃現場にいましたけれども、シンクロファックスは大いに使いました。というのは、近代教育の傾向としては子供たちの能力に即してしかも子供たちの一人一人の人権を侵害しないというより、決して一人一人のめんつをそこなうことなく、その子供たちに合ったテンポで、その子供たちに合ったステップで学習させていかなければならないので、このシンクロファックスは使っております。

ただ、学校によってはこの機械だけありまして、自分たちでこの機械にかけるプログラム、それから四分間でその子供たちが行き詰まったところを説明するシートを吹き込まなければならぬ。昭和三十九年台にこのシンクロファックスがありましたけれども、おしいかな全市的なシステム化がはかられていなかった。最近ではこのシンクロファックスがクローズアップされてだんだん使われるようになっております。昭和三十九年以後学習の個別化ということは近代化の本質になっておるわけでございます。

○ 二〇番 (君塚喜三君) 市長さんは三十九年の施政方針の中でこのようにいっておられます。「学力向上については今年シンクロファックスを購入することになっておりますが、その成果はこれによって全市内小、中学校に全部備えつけを了しました。その成果を大いに期待できることを確信いたしております。」たいへん自信に満ちた所信が述べられておるわけでございます。当時の価格において十四万六千円、それを十台分百四十六万という予算が学力向上、機械器具として計上されたわけです。それが今、教育長さんの御説明では当時は非常に活用された。しかし、学校規模においてはとても内容を整理できないためにそれが放置されておる。またこの頃になって重要視されてきたというふうな非常にあいまいなお答えがあったわけです。

とりあえず、この百四十六万ということであつたにしろ、そのことを考えるのではない。この関連というものを考えてみたい。本議案の教育有線テレビ放送施設というものについてもモデルケースだといつておる。モデルケースだといふことは、教育効果が未知数だといふことがいえる。それに一億以上の金を投資しようとしてゐるわけです。非常にきけんきわまりないことではないかといふようにわれわれは考えるわけです。しかし、三月議会において議決されておるそうですから、これはやむを得ないといつたしましても、たいへん心配するわけです。

しかも、市長さんは口を開けば教育の機会均等だといつて保育料の市負担とか、ランドセル、学用品の無償配布いかにも教育の機会均等にも通ずることでありましょけれども、そういうことがあるならば、それ以上に老朽校舎だとか危険校舎だとかこういうものがまだいっぱいあるわけです。なぜそれに対してもう少し改造するほうにお金をお使いにならないのか。その点非常に苦慮するわけでございます。こういう点市長さんは一体どのように考えていらっしゃるのか。どうも順序が狂つていやしないか。

もう一つ、学校の整理統合という問題があつたはずですが、これは老朽校舎、危険校舎を解消するためには、まず学校の施設統合をやらなくてはならない。小中学校二十校だ。こういうことでは二年継続事業でやつておつたんでは一体いつになつたら解消するのかといふようなことからこれが討議されておつたはずですが、そのときにはまたその案を出しますといふことであつたが、とうとういまだにそういつたはつきりした案が出たことも聞いておりません。これだけ先にやらなければ有線放送の施設をしました。今度は整理統合します。これはいらないことになりました。こういうことになります。したがつて、このほうが先決の問題ではないか。このように考えておりますが。市長さんのお考えをお伺いしたいと思います。

○市長（本間 譲君）　ただいまの御質問に対しましてお答えいたしたいと思いますが、教育は御承知のように人づくりでございます。これはやはり思ひきつてできるだけ予算の許す範囲において教育施設をすべきが当然であるわけでございまして、私はその線でやつておるわけでございますが、当時シンクロファックスですか、というお話しでござ

いますが、それはその当時の時代におけるすぐれたものであって相当の成果をおさめておると思いますが、時代は日進月歩でやはりいろいろ時代に即応したことを考えていかなければならぬわけでございまして、ここに文部省も推奨して館山の教育というものは非常に高く評価されておって、館山でぜひやっていただきたいというようなこともありまして、また教育委員会のほうでも検討した結果、非常にいいことだということでもありましたので、これを御審議願って実施をいたしたいと思っているわけでございますが、老朽校舎やなんかいっばいあるというけれども、そんなにありませんよ。だんだんやっておりますからそう御心配するような面はございません。この点については私は人一倍に考えて館山小学校もその一つです。一中も土地の買収等について御検討願いましたが、これもやはり老朽校舎であって、来年再来年にはできる。豊房小学校が今年できる。神戸の体育館ができる。どんどん計画的にやっておるわけでございまして、決して老朽校舎やなんかをいいかげんに扱っているわけではございませんし、その面でやっているわけでございしますから御了承願います。

○ 二〇番 (君塚喜三君) ただいま市長さんは老朽校舎はそんなにありませんとおっしゃったわけですが、整理統合の問題を御提起なさった当時はずいぶんたくさんあったはずですよ。あれから何年もうたっておりましか。三十九年がらといっても木造なんていうものは、その時点に建っても十五年ぐらいたてば耐用年数がきてしまう。かような意味からしてないということはおそらくないんじゃないか。今まであったとしても昔の建築であってこの光の取るぐあいだとかいろいろの面で教育には、現在の教育の基準からいって非常にまずいんじゃないかと思ひます。こういったもののほうが優先ではないか。私そう思うわけなんです、この点市長さんどうお考えになりますか。

○ 市長 (本間 譲君) 何とおっしゃったか聞き取れませんでした。

○ 二〇番 (君塚喜三君) 市長さんは老朽校舎とか危険校舎というものはありませんよという御答弁だったわけですよ。それでですね。

(「そうじゃありませんよ」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 質問中ですからちょっと待ってください。

○ 二〇番 (君塚喜三君) 老朽校舎、危険校舎といったものはありませんというような先ほど御答弁だったわけです。現在東小、富崎小、船形小、那古小、豊房、神余、館野、九重、館山と現在こんなにあるわけです。これは当面の人たちによって調査せられたその結果が出ておると思うんです。その点市長さんはないとおっしゃるけれども、どうなんですか。市長さん前に発表なさった学校のわけなんです、もう一度お尋ねします。

○ 市長 (本間 譲君) 危険校舎といっても授業をやれないような校舎はない。そういう意味ですよ。(笑声) しかしながら、計画的に教育委員会のほうでこれをおしすすめておりますから、それに従ってだんだんに建てていく。最近は今申し上げましたように館山小学校を御決議願ったわけですが、本年は房南中学校の体育館、豊房小学校を建てる。それから来年、再来年には一中を建てるというようにだんだんにこれはやっておるんです。しかしながら、ただ学校ばかり建てたからいいということではありませんよ。やはりほかに時代の進歩に従った教育の施設とか、そういうものも合わせてやらなければ教育の進歩、発展は私にはあり得ないと思います。ただ学校を建てればいいというのではないと私は考えております。しかしながら、老朽的な校舎に対してはこれはまた考えてなるべく早い機会につくりたい。こういうふうに考えております。

○ 二〇番 (君塚喜三君) 私のいっておるのは放送センター自体いけないということをいっておるわけではない。順序があるのではないか。それにはまず学校の統合も必要でしょうし、また先ほど申しましたようにシンクロファックスの二の舞を踏むようなことがあってもいけない。このようにいっておるわけでございますが、しかしこういう大きな予算を伴うしかもこれはモデルケースだという点にわれわれは非常に心配する。せっかくやってもまだほかにやることを残しておいてそれを放てきしておいて、こうしたものに大きな金をつぎ込んでおる。その結果がうまくいけばいいけれども、シンクロファックスみたいな結論をまねいた場合には大きな損失ではないだろうか。こういうふうに考えるわけです。そのために私は質問するわけであります、市長さんは絶対そういうことはあり得ないとおっしゃるならばそれ

でけっこうです。

○ 教育長（高木 正君） 私の答え方がわるいためにいろいろ誤解をまねいて恐縮に存じます。シンクロファックス

につきましては、小さい学校で全市的システムができてなかったために十分使いこなせないという意味で申し上げただけでございます。やはりシンクロファックスにつきましては、当時一中の数学で全職員が非常な成果を上げました。それから小学校においては、北条小学校の現在の成果の土台はこのシンクロファックスに基づいて教育の個別化、集団化という現在の成果もこれをきっかけにできてたわけでございます。ただし、不十分な面があったということはいえると思います。一部の学校でまたそういう学校でも、たとえば四分間のシートに宿題の答を吹き込んでおいて、子供たちが答え合わせをし、間違ったところがあれば別のシートでどういうところがわるいか、そういう確認プログラムとして使ったところはすいぶんございます。ただし、授業時間中に問題プログラムとしての使い方としてやったところは小さい学校では十分だとは思えないと思います。

教育委員会としましては、こういう方針を持っております。学校や学校の中に入れる机もつくってほしいけれども、同時に教育の質的な予算をいつでも拡充していきたいということでございます。よくよその市では次々と学校が鉄筋化されるけれども、その期間教育の実質予算が減ってしまったって学校運営とか、教育の振興に非常に困っておる例がたくさんあります。館山市においては北条小学校とか豊房、それから館山小学校、それから一中が改築にかかろうとしておりますが、そういうったような教育をする場所の、場の建設によって教育の実質予算が減らなかったという面につきましては、私たち非常に感謝申し上げておるわけでございます。

それからもう一つ、学校統合が遅れている面につきましては、まことに私としても申しわけないと思っておりますけれども、中学校を統合するためには土地の取得と、それから校舎の建築約十五億か十六億かかるわけでございます。教育委員会としましては、それに入る前に少なくともそういうったような教育に直接かかるところの予算をできるだけ増加してもらいたいという面の充実をはかっていきたい。教育の具体的な条件の充実というものを非常に考えたわけござ

います。そうした面で統合が遅れている。市長さんは統合しろということはずいぶんいわれておりますけれども、しかし現在においてはその統合のための計画もある程度机上プランとしてはできております。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) ただいま君塚議員からモデルケースについてはこれはまだ未知数の問題で相当予算を使うということについての質問があったと思いますが、市長さんは先ほどの答弁の中で文部省の要請があったから、教育テレビの有線放送をやることにしたというふうに答えておられますが、この問題はまだ文部省でも検討中であって結論が出されていない問題である。そういうふうに聞いております。財政的に豊かでない館山市が全国に先がけてこのモデルケースとしての有線放送をなせいそれで実施しなければならぬのか。その辺の理由について。

それから、先ほどの教育長の御答弁などを聞いておりますと、教育全体の中で見ればですよ。教材のあるいは資料の提供、いわば手助け的なもので黒板がわりに使うようなそういう内容になっていると思うんです。したがって教育全体から見ると非常に部分的なものでありますし、しかもその内容はかなり今の科学的な先端をいくような非常にむずかしさというものがあると思うんですが、そういう点で各議員がですね、この効果について相当の疑問を持っていると思うんです。教育の基本はですね、これは教育長もいっておられるように教師と生徒が肌の触れ合いを通してですね、学力体力、情操そういうものをつくり上げていくという非常に重要な内容を持っているわけです。

ことに、先生方は今、大体一学級四十人程度のこれは一人一人の生徒の性格なり、環境なりいろいろ条件が違う中で全部のこの生徒を見ていくには非常に学級数も多過ぎる。もっと教師の数をふやして学級数を減らして、教育が本来の教育としてやれるようなそういう状況をつくってもらいたいという要望があります。そういう点からみると、この有線テレビ放送はかなり教材や資料の提供という部分的なものにこれだけ多くの一億という、あるいは維持費を考えると昨年の三月の説明の中では当初の三年間は二十万ぐらいの維持費があるであろうということを答えておられますがこの維持費についても一億だけにとどまらないで相当やはり出ていくんではないか。これほど大きな財源を使ってこの効果がかなり疑われるというようなことで教師の方々も相当心配されております。聞いてみますと、やってみなければ

わからないというのが実情であって父兄の方々もやはりそういう点では疑問を持っております。したがって、これを進めていく上では運営委員会なり、この運営委員会を指導していく教育委員会に非常に大きな責任がかかっていると思う。そういう点での確信の程度は今までの答弁の中ではうかがえません。当面は非常に部分的なささいなものから始めることになるとと思いますが、しかし文部省が五千万も予算を出しているわけですから、文部省としては全国に先がけた館山のこのモデルケースを何とかして成功させようといういわゆる中央集権化ということがさつき出てきましたけれども、文部省からも相当な干渉そういうものが予算が文部省から出ているためにあるのではないか。こういうことも考えられます。

教育は自主的なものでそれぞれの条件に応じてこれに対応するような教育が正しい教育であると思います。最近の文部省の教育方針といえますか、そういうものをみますと、中央教育審議会の答申が得られまして、これが日教組そういうようなところでは大きな問題になっております。内容的に簡単にいいますと、国民的なまとまりということばで思想動員を考えるふしがあります。それは現在の日本が四次防という五兆八千億もの予算でアメリカとの軍事同盟での戦争への危険がかなり考えられる。そういう中で文部省の出してきておる方針が一つの思想動員、それと同時に幼稚園の教育から小、中、高校含めて能力主義の教育、こういう差別教育がかなりやられるのではないかと、このことで教師が心配しております。私たちもこういう国の方針と合わせて、この要するに教育の近代化といわれるこの機械化が文部省の思うような方向に引きずられていくのではないかと、この懸念すら考えられます。したがってこういう問題についてどうお考えになっておられるのか質問したいと思います。

○ 教育長 （高木 正君） まず、どういう点から申し上げたいか迷っておりますけれども、文部省では実際の運営及び放送内容については一言も意見を述べておりません。館山市の教育委員会が現場と相談してつくった案をそのまま認めております。

それから、現在においていろいろな面から申し上げられると思いますけれども、有線テレビなら有線テレビについて

一人一人の教師がそれに即応して伸びるという面と、日々どの教師もが、どの学級でもが確実な教育を行なっている。こういう両面から、そういう面からの条件づけが必要だと思います。

まず、有線テレビの発想でございますけれども、昭和三十九年、昭和四十年頃館山市の教職員で組織しております市教研いろいろな館山市の教育ビジョンというものを検討したことがあります。そのときに各学校が同じような努力をしている。したがってその努力の実りが少ない。この各学校ごとの努力を再編成して共同で努力していけば実り多いものになすんではないか。そこで各学校の努力の再編成という柱をたてた。

二番目には、それぞれの教師にすぐれた能力がある。その能力をその学校、学級の中にとどめなくて全市的に利用することによって各学校のレベルアップをしていこうではないか。そういったような面から教師の転位のきく能力の形成ということばで私たちは考えております。

三番目は、教育理論があまりむずかしかった。少数の教師しかわからなかった。教育理論が振り回わされていた。そこで教師にとってそれをどの教師にもわかるような、どの教師にも通用し、具体的に実現できるような教育の教師にとっての大衆化をはかりたい。

それから四番目に、予算は少ない、少ないというだけでなく、予算を効果的に使う方法をくふうしようではないか。そのためには共同購入して、それを共同で使おうではないか。そういったような館山市の教育ビジョンというものが出たわけでございます。その後焦点カリキュラムというものをつくりまして、どういうふうに教えれば確実な効果が得られるとか、その指導計画にはどういう条件が必要だろうかといったような一を聞くことによって、それが十分に使えるような元になる焦点カリキュラムをつくらう。あるいは資料センターをつくって共同購入したものを自動車で運んでもらって使おう。そうすれば自分の学校で管理したり、準備したりすることもなくなる。そういったようなことがあったわけでございます。その各学校ごとの努力とか、教師のすぐれたそれぞれの能力を全市的なものにするという発想からどういうふうにしようかという意見がございまして、たまたまいろいろなところから教育情報が現在入っております。ア

アメリカとかイギリスではこの方法をやっておりますので、そういうところから入ってきてこういったような放送センターによって時々刻々授業をしていく、それから相互研修もしていく。こういったようなこと。これも先ほど申し上げましたけれども、現在の指導行政は県の教育センターを中心にした印刷物と研修会によるもの。それから学校訪問をしてその授業がどうだ、こうだといって討議する形のものとか部分的な教師も含めた研修でございます。とてもこういう点では教育の進歩に各学校が即応しきれない。そこでやっぱりな力で何とかこれを即応していこう。それからごく少数の教師だけが優秀な教師でなくて、みんなが確実な教育効果を上げられるようにして、そういったようにしてこれができたわけでございますので、私たちとしましては、そうした意味でのいろんな効果が十分期待できると十分確信しておる次第でございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 私の聞きたいのはですね。まだ教育テレビの有線放送というものは全国的に先進的な経験というものが無いわけです。館山市がなぜ今いそいで文部省でまだ検討中で結論が出てないようなものについて一億もの予算を使ってやろうとするのか。そういう点での説明が。

○ 教育長 (高木 正君) 現在各学校ごとで校内放送をやりましたり、視聴覚教具を使っておるという面ではどうしても学習の近代化のためにこれが必要だということでございますので、実際は効果を上げておるわけでございます。しかし、先ほど申し上げましたとおり、学校ごとでやっておりましたのでは経費も非常にかかるという面もございましてそれから小さい学校では先ほど申し上げましたとおり教材をとてつくり得ない。そこで全市的なシステムを組もうというところでこういうことをやったわけがあります。したがって、全市的なシステムについては初めてでございますけれども、視聴覚教具が非常に有効であるとか、そういう教師の横のシステムを組むことも重大だということとははっきり効果を上げておるわけでございますので、初めていいましてそういう前段階をふまえての初めてだという面。御了承いただきたいと思います。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 文部省でもまだこういうことに対して疑問を持っているわけですね。検討中だから結論

出してない。それを館山市にやってくれということまで引き受けたわけです。しかし今、私たちが一般的にみてテレビから受ける影響というものがどっちかというと非常に感覚的に受けとめて、読んで考えるというようなそういう点がかかなり弱くなっておる。こういう一つの弊害が出ておる。そういう弊害をおしていくという内容もこの有線放送の中にはあると思いますが、しかし、一般的には視聴覚から入るこういうものがかなり浅いもので、読んで考えるというようなそういう教育本来の姿にむしろ逆行するような傾向も出ている。だからこの先進的な経験もないそういうものをなぜいそいで館山がやらなければならないかという点について心配しているわけです。

ここに予算を使うべきか、君塚議員がいったけれども、まだまだほかにいそいでやらなければならないところに予算を使うべきではないかというようにことが館山市とすればたくさんあるわけですよ。そういう財政の中で館山市がなぜこういうまだ先のわからないようにものにとびついてやらなければならないのかという点が、そこがはっきりしないわけです。

○ 教育長 (高木 正君) 確かに従来の教育は活字文化時代の教育だといわれておったわけでございます。ということは論理的、分析的な思考を中心にした教育。しかし現在のように社会の進歩の著しい時代においては創造性というのが非常に大事になってくる。そのためには直観的な思考を大事にする。そういうことから視聴覚教材も非常にクロイゾアップされてきた。したがって、私のほうはそういう流す面についてはそういう面から十分注意しているつもりでございます。

それから、文部省で問題化しているというお話してございますけれども、文部省は問題化していればたぶん予算は出さないうちかと思つたわけでございます。私たちのほうでは、現場側といひましても校長、教頭ですけれども、各学校を回つて話し合いに行きましたけれども、少なくとも一般の教育行政において教育の近代化や教育の地域格差を少なくするためには急務だと思つているわけでございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 教育長が有線放送について熱意を持つてゐるということはどうかがえるわけですが、何と

いっても初めての経験でもありますし、これを成功させるということは非常に大事なことだと思ひます。ここに相当力をそそがなければこの初めてのケースも期待できるかどうかということはわからないわけです。したがって、そういう点について心配があるわけですが、ここに力を相当そそぐとすればそのために各学校の受ける側、そういうところからの資料の提供そういうようなもので相当教師が振り回されるのではないかと、この心配も出てくるわけです。そうすれば教育全体から見ると一番大事な生徒と教師の接触という面がたな上げされて、要するに機械化された教育の中に力が相当導入されてびっこな、そういう教育が生まれやしないか。そういうものも教師自身が心配しているわけです。そういう点で君塚議員からもそういう質問が出たと思いますが、こういう点で本当に自主的にこれを成功させていく確信があるのかどうか。

○ 教育長 （高木 正君） 現場側ではすぐに一〇〇%の放送が始まるものと思ひて期待しているわけでございます。

一〇〇%の放送と申しますと一日八時間それが三チャンネル二十四時間と書いていたようなことは不可能でございます。新しい教育条件が入るわけでございますので、漸進的に進めていきたいわけでございます。これにつきまして、全国から現在の指導行政に限界がきた。人海戦術的な指導行政はだめだということと私たちのほうに視察に来、そこで共同の協議会を持っているわけでございます。各地とも熱意を持っているわけでございまして、館山市はそういった力をうらやましがられているわけでございますけれども、私としてはどうしても現在の教育の現場において必要だ。これだけはぜひやりたいという強い気持を持っておりまして、したがって成功させるためには十分な慎重な態度で現在進んでいるわけであります。

○ 九番 （辻田 実君） だいたい意見も質問も出尽したようでございますので、私はその中でもって漏れているような問題について三、四点お伺いしたいと思ひます。

この放送センターの設置に伴いまして、先ほどの御答弁の中で幼稚園、公民館、小、中学校にということでございますけれども、現在公民館の十館のうち、常設公民館がほとんど見られませんか。こういうところにテレビ放送を入れても

だれが見るのか。極端なところでは館山なんかは看板だけで公民館ございません。学校の職員室のところに公民館と書いておるのが多いようです。出張所に書かれてあって、実際には留守番もないし、放送をどういう形で見ていくのかという点についてはどういうふうに考えておるか。この点まず第一点。何か形式にはしっているような面がありますのでお伺いしたい。これについて設備の充実さらには常にいろんな社会教育団体の人たちが利用できるように体制、人員配置こういうものは考えられておるのか。討議されておるのか。この点をまずお伺いしたいと思います。

第二点は、幼稚園から小、中学校に至りますところの非常に幅広い階層に分かれての放送教育でございます。先ほど来も多くの議員の人たちから地域格差また個人格差の問題について非常に心配されておるわけでございます。そこでもって三チャネルをもって幼稚園から社会教育、さらに中学校に至るまでの教育指導というものが非常になまはんかところでなく、ごく一部ではないかというように思われます。

それについては、財政的に非常に犠牲が大きいように感じますけれども、三チャネルではどの程度のことを考えておるのか。三チャネルだから、したがって聞いても聞かなくてもいいといわんばかりに聞こえますけれども、小学校から中学校までの九年間の間で三チャネルを使用するということになればたいへんです。幼稚園、公民館が入ってくるわけですから、そのチャネルにしても、切りかえにしても相当高度の運営をもっていかなければならないと思いますが、非常にしろろと目で見ても、とにかく非常に危険な橋を渡ることの上ない状態という気がしてならない。教育長さん熱心でだいじょうぶなようなこともいっておられますが、手放しておまかせできるという性質のものではない。三チャネルでもってオール指導すると、教材の一割ぐらい役に立てばいいと思いますが、そんなもんじゃありませんかと思えますので、この点が二点。

第三番目には、テレビの受像で見る範囲、その他がありますから学級の人員数、その他について影響がないのか。現在の定員の問題、そういう問題等から見て教育上テレビの設置状況がどうか。特に先ほど出ております学校統合問題については一応打ち切ったというんですか。目安を立てたということの前提に立っておるのかどうかという点。統合とい

う問題はないということでお考へておるのか。そして学校の教室の中に児童の三階級、テレビを見る四十何人かで見るあれが果してこのテレビでもって有効にいくかどうか。非常に細かい問題ですけれども、そういう問題についてどうか。それからもう一点は、運営費の見通しについて財政課長にもお伺いしたいわけでございますけれども、試算はなされておるかどうか。この点については先ほどからかなり質問が出ております。私は具体的に質問の中でもって、今年の予算だけでも二千万ぐらいの予算がかかるんではないかと予想されます。将来相当の予算がかかるんではないか。カメラがあれば写真が取れるというわけではありません。いろいろの修理代、フィルム代、いろいろなスタッフそういうものがあるので、九人でやっていけるということですけれども、発足してから九人ではできないから二十人にしてください。二十五人にしてください。維持費は最初は二千万でございますけれども、さきについて五千万かかります。六千万かかりますということになってきた場合に中止いたします。こういうことになった場合、私はとり返しはつかないんじゃないか。今の館山市の財政事情というのはこれに耐える体制にあるのか。

私は、簡単に考へても年々経費が、今年は二千万、来年は倍、三倍に上っていくんではないか。それは三チャンネルの放送教育の中における矛盾、その中でもって無理にやらなければならぬ。少しでも成果を上げたいということは財政的に人員の確保、教育長九人といっておりますけれども、八人、九人という数は永久的ではないと思います。そういう問題に対して財政的負担に対しての討議は教育委員会ではなされたのか。財政課としては将来五千万、六千万、私は試算してございませけれども、ざっと数えても五千万以上のものが二年先には出てくるというふうに計算できます。さらには次の時代になりますけれども、テレビの材料費、購入代だけでも五年耐用年数ですでに当初において六千万かかる。このことについてはあげ足は取りません。私は年々どのぐらいの予算額が見込まれるのか。この点について討議したことがあるのかどうなのか。その点について財政課では今のところどの範囲まで耐え得る財政状況か。この点についてお伺いいたします。

○ 教育長（高木 正君） 公民館の放送センターからの放送でございますが、私たちは専従者がいないので特にこれ

をやりたいわけでございます。と申しますのは、どういうやり方をするかといえますと、公民館でいろいろな会議、その他がありますときに要請によって放送いたします。それからもう一つは定時放送いたします。放送も時間をきめて定時放送をやりますので、定時放送をきょうは見ながらやろうというところは、公民館の会合をその日時に合わせていただきます。

要請によって私たちが流したいものは、ややもすれば一例によって全体がそうであるという決定をする。そういう思考態度であります。やはりたくさんさんの例から帰納的に検討していかなければいけないけれども、演繹的に一つの事例から類似的に思考できるものはどういう範囲か。こういった面についてはもっとも社会教育の放送をやる場合にはやらなければならないと思うわけです。ところが現在においては話し合いが中心に行なわれるものですから、自分たちの直接経験が多い。そういうものを拡大してあげたい。公民館には一つ一つテレビを備えますけれども、そのテレビは県の教育放送が見られるようVHFが見られるように、それから現在の第一チャンネルあるいは第三チャンネル、第四チャンネルというものが見られるように、一般の家庭が受けておるものが見られる。それから放送センターからの館山市の教育放送が流れる。またその地域の婦人会とか公民館、青年団、婦人会の人たちの幹部が集まって相互研修のできるような放送を要請によって流したいわけでございますけれども、これも次第に教材になるものを蓄積しなければならぬと思います。特に私たちがこの公民館でやりたいことは、現在ある公民館用の機械器具等は一発勝負でございませう。それを見せてあとで話し合いをする。話し合いの結果がこうなった。さあどういうふうに突込んだらいいかという追跡的な展開がないわけでございます。私たちのほうではそういうようなものを弾力的にやりたいわけでございます。これが公民館のほうでございませう。

それから、地域格差の問題で三チャンネルでございませうけれども、これも先ほど申し上げましたとおり、私たちは小中学校には三チャンネルで流したいわけでございます。したがって、小、中学校に三元放送の分離したり、増幅したりする受信装置をまず職員室に備えつきたいわけでございます。それから各あと教室のテレビがつながっております。

学級では自分の好きなものが見られるということでございます。それで、公民館と幼稚園は別に一チャンネルで流す。三チャンネルといいますが、これとは別にまた神戸なら神戸の学校から放送センターを通しますけれども、全体への中継放送ができるようになっております。

それから、テレビの受像機と人数との関係でございますが、私たちのほうでは一九インチ、二〇インチ、講堂では二二インチこれを全部いつも同じように、子供が同じように見るのではなくて、今流れておるのはこれは見なさいとか、いろんな見る対象は弾力的に行なわれております。

それから、統合と学校建築については私聞き方がわるくてわからないで申しわけございません。少なくとも統合するときには、中学校の統合と同時に今度は小学校の建築をそれにどうからませていくかという問題が起きると思いますが私としてはたとえば一年が一組、二年が一組とか、そうしたような少なくとも六学級以上小学校があるときには統合しにくいと思います。しかし、中学校は専門の教師がいなくてはなりませんので、統合しませんでしたと十分の教育効果が得られないと思います。

それから、最後の経費でございますが、私たちは大体年々二千万あればだんだん教材は蓄積されていきます。たとえばテープも繰り返し何回も使えます。それからビデオ、VTRのテープも一本一万幾らでございます。これは消しては使い、消しては使いができるわけでございます。消したくないことは部分的に取って置けます。それから私たちがやるうとするのは放送だけでなく、放送に流した教材は各学校なり、各教師なりが借りたければそれを配達してやるようなサービスは同時に行なわれるわけでございます。以上でございます。

○ 財政課長（長谷川広治君） 財政的予定とその金額ということでございますが、四十六年度の予算編成時点の見込みでございますので、また私どもの財政予定表は五十年まで現在できております。その中では大体経常経費が月百万という考えでございます。そのほかにケーブルの使用料は現在の時点では約八十万ということでございます。年間九百六十万、約二千万程度のものは五十年程度までの分に組み入れられております。

○ 九番 (辻田 実君)

公民館のほうはあれなんです、公民館のないところは延てくれるとか、そういうあれをするんですか。館山とか船形ですか。那古も現在修武館を図書館に使ってあって、図書館できれば何とかなると思いますが、そういうものがあります。また学校の中のどこになっておるものかわからないような状況でもって、その他にもそういうところがあるようでございます。この公民館の建設についてはどう考えておるのか。現実の問題として。これがまず第一点。

それから、運営費の経常費百万ということと、ケーブルだけで九百万ということでもって経常的に二千万ということとでいっておりますが、まあぎりぎりではないかと思いますが、これをオーバーしたときの責任、それをどう解消していくかということなんです。これはいいづらいような質問ですけれども、これがやっぱり私は一番ネックだと思う。財政的に裕福であれば問題はないと思いますが、しかしながら、この点についても実際に常識的に考えても八人で運営していつてこれだけのものやっていけるか想像つかないわけですが、この点について答弁がしにくかったら質問がきついうでございまして、この点でございすけれども、とにかく八人によって年間二千万ということとやっていく見通しですか、できるといふことであればけっこうでございますが、できるからこういうことだと思ひます。再度お伺ひしておかないとこれが一番ネックだと思ひますので質問いたします。

それから、チャンネルは三チャンネルであるということと幼稚園、公民館は独立してあるということですから、これは結局同時に放送できるんですか。その場合、一つのチャンネルを使つておれば、一チャンネルなら一チャンネルを使つておれば一チャンネルの小学校乃至中学校のものというのはい時ストップしてなければならぬのではないか。その点は八人ぐらゐのスタッフと機械数からいつてこの学校に三チャンネルとか適当なものを送つて、ほかの学校では場合によれば一チャンネルとか十二チャンネルとかいふ総合的な同時放送が可能なのかどうなのか。そこら辺についても非常にいいように思われすけれども、現実の問題としてそれだけの高度の精密なものを持つておるものかどうか。その点についてお伺ひしたいと思ひます。

○ 教育長（高木 正君） 館山と船形につきましては、とりあえず学校に仮設しておきまして、この公民館の建設は実は公民館につきましては全体計画が立ててあるわけでございます。ただ、それもまだ予算要求として出す機運になっておりませんけれども、私たちとしては計算してあるわけでございます。そうしたものに逐次ラインにのせていただきたいと思います。

それから、予算につきましては、あらゆる予算について確かに辻田さんのおっしゃるように懸念があるわけでございます。ただ、私どもはできるだけこの予算の範囲内でやっていくように努力したいと思うわけでございます。

それから、第三点目は小学校に三チャンネル流しているとき同時に幼稚園は流せるわけでございます。それから小学校に三チャンネル流して幼稚園もそんなことできるかというお話してありますが、ただ、ここに制限がございます。なま放送ならなま放送で流しているときに、小学校にもなま放送、中学校にもなま放送、幼稚園にもなま放送が流せるかというところというわけにいきません。なま放送とフィルム放送は二種類流せます。それから文書とか書いたもの、テープなんかを流すのは幾つにもかみ合わせてなっておりますので、放送番組をつくるときにそういう技術的組み合わせなければなりませんけれども、テロップというのは字で書いたものでございます。そういうものが自動的に流れていくようになっておりますので、操作はできるだけ簡単ということで業者をお願いしてございます。

○ 九番（辻田 実君） 最後に一点だけ御質問申し上げたいと思います。

先ほどの質問の中をもって市長と教育長の意見の違いがありますので、この点は教育の問題だけにきちんと是正しておきたいと思えます。君塚議員の質問に対して、シンクロファックスの利用について、市長さんは時代が日々新たに更新してあるので、シンクロファックスは今使われておらなくても当時は能力を果たしたということで、その機能性についてはあたかも失われた。今使ってなくてもいいのだ。こういう御答弁がなされております。

しかし、教育長の前段の答弁の中におきましては、シンクロファックスは非常に使われた。今でも非常に教育価値を残しておる。残していながらなぜ使われておらないのか。現実にはほとんど全部の学校連絡してみましたが、使っ

てある学校はありません。現在のところあるところがありましたら教えていただきたいと思います。ここ一、二年ほど使っておりません。全部ほこりをかぶってあるということでございます。そうでございます。

三十九年当時、もう教育の革命だということで施政方針の中で打ち出して絶対確信を持って教育の革新がということで発表しておいて、それが時代の日々新たなということでわずか六、七年の間に旧式になってしまったという答弁。教育長は現在なおかつそれは有効なんだ。りっぱなものなんだ。その教育革命をもたらししたものがないで使われておらないのか。全体的にほとんど使われておらない。この矛盾を統一していただきたい。

私は、教育の問題についてこのように市長乃至教育委員会の見解の相違、基本的相違というものがある中に、今度の有線放送においてシンクロファックスと同じように、討論も同じように三十九年当時の教育委員会は、本当に一部のすきなないシンクロファックスは教育の革命だ。個々の生徒の性格を育成するには決定盤といわれておりながら、日々新たなということと現在の予算事情、市民の税負担の矛盾の中で将来済まされない。この点について特に強調して最後に質問したいわけでございます。以上この点について市長並びに教育長の統一した見解を御答弁願いたいと思います。

○ 教育長 (高木 正君) たとえば、中学校では一中、二中やなんか実際に使っておるわけでございます。こういう

室をつくって、しかも二中、一中、房南でも。もう一つは、シンクロファックスは先ほど申しましたとおり、問題プログラムができなければならない。問題プログラムというのは、一つ問題を十問以上の小さい問題に分けるわけでございます。それをやっていくと自分が知らず知らずのうちに間違っていることがわかり、正しい答えができて問題全体の反応ができる。それをつくらなければならないということ、それから子供がひっかかったときにそれを解きあかすところの手がかりをシートに吹きこむわけでございます。

こういう面から一つの難点がございすけれども、シンクロファックスというのは学習の個別化の依然として本論をなすものである。現在においてはシンクロファックスは耳だけでございますが、これをからだと結びつけて耳と目で両方で具体的に学習ができるようにしようという動きが小学校方面ではあるわけでございます。集団万能装置とシン

クロフアックスをつなげるとか、シンクロフアックスと自学自習装置とか、そういうものと結びつこうとして発展はしているわけでございます。私たちとしては、現在の教育の中で個別化の方法は依然としてたどっておるということと、現在も使っておる学校は依然としてある。使っていない学校があるとすれば、そういう学校については現在においてはなにもかも同時に展開することができませんので、シンクロフアックスにかわる何か的確な方法でまた努力しているかもしれないわけでございます。

たとえば、現在有効な学習器具として新しい幻燈機ができております。オーバーヘッドプロセクターというそういうものをやることによっていろんな教材を重ね合わせることが出来ます。たとえば、第一の図面を壁に写して見せます。それによって子供たちにいろいろ考えさせる。そうして次に第二の図面を合わせると自分の考えが正しいかどうかわかる。第一の図面、第二の図面を合わせることによって自分の考えていることが正しいかどうか判定できる。子供たちは正しい学習を進めることができる。それでもなおかつわからない子供たちは第三の図面を重ねてもらうことができるわけであります。そういう学習のしかたがございます。それぞれの学校がいろいろの方法を教育に展開していくということは、構成メンバーで不可能なことでございますので、そういうことは巡回的にそういうことをやって、そうして気軽に機械が利用できるように努力しているわけでございます。

○ 九番 (辻田 実君) 市長の答弁を受ける前に、中学校でもって使っているというようなことでございますけれども、確かに機械はまだあるようでございますが、それが実際にはほとんど一年のうちに何回か使われる程度ということでもって、小学校もほとんどについて使わなかったということだそうです。その過程において実際には教育のカリキュラムその中で、時間表の中でどの課目が使われているか把握されているか。確かに一中、房南でも聞くとほとんど一年に一べんか二べんしか使わない。ほとんど機械のテストケースだということを聞いた。この点についてはっきりしておきたいと思えます。

○ 教育長 (高木 正君) 具体的な方法に属するわけでございますけれども、毎日毎日、毎時間毎時間どの教材でも

シンクロファックスを使わなければならないことでは子供たちがまいてしまっています。三十分なら三十分自分が耳に突込んでやりますから。濃度の高い教材とか、子供たちの学習するプロセスでいろいろ多様化しなければならないといったようなものは、子供たちにシンクロファックスを使うとか、オーバーヘッドを使うとか、そういうようにしてやるわけでございます。ですから、それがあから毎日毎日、毎週毎週義務的に使わなければならないとなると、もう教育は形式化して困るわけでございます。

○ 市長 (本間 護君) ただいま辻田議員さんのお尋ねでございますが、私は教育委員会の申し出をさらに検討しまして市民のためになるということについては、それを実行にうつす方針でやっておるんですが、ただいま辻田さんの御質問はちょっとよくわからなかったんですが、私がそれを使わなくてもいいというように聞いていたんですが、そういうことは決してありませんし、ただいま教育長が申されましたように、教育委員会のほうで今もそれを使用しているというからそれはそれでけっこうであるわけでございますが、しかしながら時代はいろいろ進歩して参りまして、五、六年前の行政と今とではいろいろの面において発展があるわけございまして、それを取り入れてやろう。こういうようなことでございますから御了承願いたいと思います。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。 — 御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議あり」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を委員会付託省略することに賛成の諸君の起立を求めます。
(賛成者起立)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 起立多数。よって本案は委員会付託省略することに決しました。

討 論

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより討論を行います。

○ 九番 (辻田 実君) この館山市教育放送センター条例の制定につきましては、ただいま非常にたくさんのお質問がなされたわけでございます。その中におきまして私は四点に及んで、特に三点について反対の意見を持っております。

まず第一点は、この放送教育センターの発足条例そのものが六条という集約された中において、莫大な経費と日本の教育の先頭をいくべき革命的な教育制度にありながら、このような形の条例の中において発足させるということについては非常に館山市の教育について今後問題を起こすのではないかと。もう少し本条例の特に三条の内容等については整備し、さらに検討を加えていただきたいと思います。特に放送施設等の問題、付帯設備の整備の問題、公民館の問題もございまして、学校の統廃合の問題もございまして、こうしたいろいろな付帯設備、その他に関することの問題が十分に整備されていないままにとかく発足させてしまえばその中で何とかやっていけるんじゃないか。いい方によれば、何とかやってしまえば何とかなるのではないかというように非常に教育問題の姿勢としては軽率な面が見られるわけでございます。そういう感がこの六条の中で、この条例でこの放送センターの発足というものについては時期尚早である。したがってこの条例の十分なる検討をしていただきたい。

特に二番目として、シンクロファックスの利用等についてはただいまの質疑の中にあったような状況でございましてある程度この面については教育長の最後のことはございませんけれども、シンクロファックスということでやればあきてしまうということで適宜ほかのものを使得やっていくという形の中で、そういう状況の中において今度は膨大な予算特にいろいろやらなければならぬ教育的の問題、市長の話ではないけれども、学校を建てればそれでいいとい

うわけではない。教育センターを私にいわせれば教育問題は根本的に解決だということは、このシンクロファックスの実績、これに対する評価それらの取り組みから見て試験的に館山市の教育の中にこれを取り入れていくということについては、あまりに館山の教育を犠牲にすること非常に大とすることであって、このような段階でもって館山の児童、生徒をこうしたところの犠牲にしなければ幸いでございますけれども、こういうものを大とするものについては、教育については慎重を期すべきだというふうに私は考えます。

三番目に、私は財政的な見通しについて非常にあまい。特に館山は非常に財政的な窮地に追い込まれております。この問題についてここでもって一億円の投資すれば、このむこう五年、十年というものがそれで解決すればけっこうでございます。しかしながら、毎年二千万はかかるだろうということでございます。二千万ずつでもってことが済めばいいのでございますが、その積算そういうものについて、私はこの財政的な面から見て十分検討しなければ、とにかく金を出してしまつて済んだのだということでは済まない。莫大な経費であるわけでございますから、この予算の運用の面から見ましてももう少し十分に見通しを立てて条例制定に取り組んでいただきたいと思うわけでございます。

四番目に、この条例に対しての執行部のあいまいさというものが答弁の中に出ておりますけれども、必ず見なくてもいいのだ。見てもらわなければ損だというふうにしていかなければならないという、本当になにか質問の脇から聞いておりますと、非常に無責任な答弁というんですか、というふうに聞こえるんです。どういう真意でいわれておるかわかりませんけれども、必ずしも見なくてもいいということ。もう一点は質問の答弁の中にはカリキュラムの編成まで指導しなくてもいいのだ。カリキュラムの指導、編成していかなくてもいいのだということにおいてこれだけの教育改革をやるということ、放送テレビによって試験的教育をやっていくということ。こういうことはカリキュラムの編成適当にやりなさい。無理しなくてもいいということ。さらには必ず見なくても必要に応じてやってもらえなければいけないというこの程度の段階でもって制定されたところの条例というものについては、とにかく予算においても相当額の予算を組んであるわけでございますから、この条例に基づいて予算をそうそう簡単に使っていかれるということは、私は軽率

の感があるわけでございます。したがしまして、さらにこれらの問題については十分な討議を進めて、今出されたような質問についての懸念こういうものを十分やって、予算が組まれておるから今年度予算でやらなければならぬとは思いますが、しかしぎりぎりいっぱい待って、三月ぎりぎり予算年度いっぱいになって十分ねばってやるべきだ。教育の問題は、やり方がわるかったから間違いましたでは済みません。子供の教育は二度と繰り返してはできません。生命と同じでございます。こういうものは慎重にやらなければならぬ。

したがしまして、私は本来ならば、委員会を設けて付託して十分討議した中でやるべきだというふうに考えておりましたが、委員会付託については否決されたようでございますから、これは申しませんが、これに対する教育委員会並びに現場の討議、さらには文部省ないしその他の関係機関との十分なる討議をして急がずにこの教育センターの条例制定を進めていかなければ、教育について一部の誤まりがあっても後顧に憂いを残すというふうに考えられますので私は以上五点の立場に立ちまして本案に対しては、条例制定は継続審議にして次の議会並びに一番機熟した機会に審議するように要望いたします次第でございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 辻田議員から反対討論がありました。私は今までの質疑応答の中で館山市が豊かでない財政の中で、今なぜ全国に先がけてこのモデルケースを引き受けなければならなかったかという点については、答弁に私は納得しておりません。

この教育テレビがモデルケースとしてやられる以上、かなり内容的にはむずかしい面も相当ありますが、しかし教育全体から見ればやはり部分的なものです。こういう部分的なものにこれだけの予算をかけるということは、今の館山市の財政状態から見て時期が早い。もっと先に延ばしてもよいのではないか。いそいで館山市がこの問題にとびついてやったのは、今まで市長さんがいろいろ言っているように、私はだれもやらないことをやるのだという市長さんの好みでこういうものがやられたような感じがしてならないんです。これはPTAの会費を全部市が負担するといいうき過ぎ、そういうものもあったし、これは定例議会で市長さんの政治姿勢をただすという中で私がかかり内容的に触れたわけで

すが、そういうような市長さんのこと教育の問題に対する慎重さが欠けているのではないか。そういう点から見ても今館山市がこの問題をやることは少し重荷ではないかというふうに考えますので、この条例に対しては反対するわけでございます。以上、討論を終わります。

○ 二六番 (飯田義男君) 私は本案に対して賛成を表明するものでございます。

本案に対しては昨年来より各部門、部門において各専門家において再三再四検討された結果、その積み上げが三月市会においてこれが決定をいたしましたして予算化した問題でございます。したがって、この問題については十分論議がなされております。もちろん、これを実行することによってその効果が一〇〇%であるかどうかという絶対的な要件というものはもちろんないと私は考えます。しかしながら、現在の時代において、これは企業においてもそのとおりであります。先取りをしていわれる新しい時代に即応したあらゆる教育機能、教育要件というものを検討し実行にうつすということは、より進歩した制度あるいは進歩した子供たちを私たちの郷土から送り出すという非常に有意義なことだろうと考えます。そういうことから考えまして、私は本案については、将来この効果が必ずや発揮されるであろうと期待いたしております。どうか本案について皆さんの質疑を受けられましたいろいろな問題を頭におかれまして、執行部は運営にあたっていただきたいということを要望いたします。

○ 二二番 (田村源治郎君) この教育放送センター条例に対して、私は特に現在進歩的の頭を持ち、この条例を定め施行することに賛成するものであります。特に慎重審議に教育委員会が立って、この条例に市の教育ということについてがっちりやっていただくことを要望して賛成いたします。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。

採

決

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより採決いたします。本案は起立により採決をいたします。本案を原案通り可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 起立多数。よって本案は原案通り可決されました。暫時休憩いたします。

午後五時 十六分

休 憩

午後五時 五十一分

再 開

○ 議長 (吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

会議時間の延長

○ 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本日の会議時間は議事の都合によりこの際あらかじめこれを延長いたしましたと思います。これに御異議ありませんか。――御異議なしと認めます。よって会議時間は延長することに決定いたしました。

議案の上程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第七、議案第六十七号館山市教育有線テレビ放送装置購入契約の締結についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第六十七号 館山市教育有線テレビ放送装置購入契約の締結について

議案の内容説明

○ 庶務課長 (小倉澄男君) 議案第六十七号につきまして御説明申し上げます。

館山市教育有線テレビ放送装置購入契約の締結でございますが、この装置につきまして三大メーカーの日立、東芝、ナショナルから仕様書、見積りを徴しまして、教育委員会並びに放送センター技術職員、専門職員の慎重なる調査、検討の結果、この有線テレビ放送システムの総合的なシステム体系の樹立を日立にお願いする。内容といたしましては別添のプリントにございます有線テレビ放送装置購入一覧表というのがございますが、そういうことになったわけでございますが、まず放送センターの映像部門を日立、音声部門をナショナル、照明部門を東芝と、並びにそれぞれの端末を三社に担当してもらうように折衝いたしました結果、千葉ナショナルが総合的なあれならばやるけれども、端末としてはこの際おりたいというようなことでございましたので、ナショナルに担当をお願いしました音声は東芝にお願いいたしました。その結果、日立が総合的なシステム設計の責任として、並びに放送センターの責任を持つということでございますが、そうして東芝がいわゆる端末である二中、一中、館山小学校等の端末のテレビを中心とした語学練習、放送センターの音声装置、照明を東芝。

ナショナルは先般放送機器として北条小学校の放送機器を実施いたしました関係上、その端末である北条小の放送機器の未設置分を担当いたしましたして、総合的に北条小学校の放送機器の責任を持っていたかどうかというような話し合いがまとまりまして、それぞれ日立製作所に四千二百万円、東芝商事株式会社に千九百万円、千葉ナショナル通信工業株式会社に八十三万円、計六千八百八十三万円の館山市教育有線テレビ放送装置購入の契約を随意契約の方法をもちまして締結したいということでございます。よろしく御審議のほどをお願いいたします。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 質疑に入りたいと思いますが、その前に議事運営上、議長より御要望を申し上げます。御案内のとおり質疑後討論がございますので、質疑の部におきましてはなるべく質疑に重点を置いていただきたい。かように考える次第でございますので、炎暑のおりでもございますのであえて御要望申し上げます。以上でございます。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

- 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案については委員会に付託することを省略することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。本案に対する討論を行ないます。討論はございませんか。――討論なしと認めます。

採 決

- 議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を原案通り可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

- 議長 (吉田勇治郎君) 起立多数。よって本案は原案通り可決されました。

閉 会 午後六時 閉 会

- 議長 (吉田勇治郎君) 以上により本臨時会に付議されました案件全部を議了いたしました。よってこれにて第四回市議会臨時会を閉会いたします。

- 本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、諮問第一号

一、発議第三号、議案第六十五号乃至議案第六十七号

地方自治法第二百一十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田常治

館山市議会議員

鈴木稔

館山市議会議員

田中祐良

